

医学部ウォーカー

1面：先制栄養医学講座の設置にあたって／生体高分子健康科学講座の設置にあたって 2面：医学研究科長・医学部長寄稿／病院再々開院に向けて 3面：附属病院初の脳死判定・臓器提供手術を終えて 4～5面：最終講義／地域医療学講座研究成果発表会 6面：各賞受賞 7面：ロボット手術が500件を超え製造元から表彰贈を授け、日本学術振興会の学術システムセンター専門研究員に選出されて／弘大病院が参加した国際共同臨床試験を根拠にFDAがニボルマブを緊急承認 8面：卒業生進路状況／学生表彰／学位伝達式 9面：ベスト研修医賞選考会 10面：SD章授与式 PBL開催にむけたFD講演会 11面：世界自閉症啓発デー記念イベントin弘前が開催 12面：後期研究室研修優秀発表賞 13面：若手教員・医師だより 14面：留学だより 15面：関連病院勤務報告 16面：青森あすまし温泉旅行 17面：学生だより 18面：日本学生スキー選手権大会を終えて 19面：研究室紹介 20面：脳血管病態学講座、歯科口腔外科学講座 21面：部活動紹介 22面：剣道部、Medical Cool Quartet、空手道部 23面：人事異動

題字 前弘前大学長 遠藤正彦氏筆



村下公一教授と高橋一平准教授による会社訪問（左から3人目が社長の小谷近之氏）

共同研究講座

「先制栄養医学講座」の設置にあたって

先制栄養医学講座 特任教授 中路重之

六年前のことになりますがつくば市にあります協和発酵バイオ㈱に参りました。その目的は岩木健康増進プロジェクトのビッグデータをアミノ酸分析を加えられないかということでした。発酵を基盤としながらも、世間的にはアミノ酸の会社として知られる協和発酵バイオなら何らかの答えがあるのではと考えたわけです。簡単に言えば測定

をしてもらえると。しかし残念ながら協和発酵バイオにその余裕はなく、そのための機器を追加して購入するか検討したいという答えをいただきました。少しがっかりして弘前に帰ってきたのですが、私の胸になにか温かい気持ちが残っていました。というのも、この会社の社員の皆様に、まじめさというか温かさを感じたからです。私のパワ

ポイントを使った説明にもきわめて真剣に聞き入っていただけでしたし、その後の討論も熱の入ったものとなりました。

担当の小松美穂さんのお見送りを受けながら「いずれはこういう会社と一緒にやりたいな」と思いました。岩木健康増進プロジェクトがCOIに採択されたのが平成二十五年でしたから、その二年前になりました。

COI採択を機に、豊富な資金に物を言わせて真先に測定したのが四十種類のアミノ酸分析でした。早速、小松さんに連絡を差し上げ、そして共同研究（弘

寄附講座

「生体高分子健康科学講座」の設置にあたって

生体高分子健康科学講座 特任教授 中根明夫

この四月から、文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラム（研究機能・産業集積高度化地域）「プロテオグリカン関連バイオマテリアルをコアとした津軽圏ヘルス&ビューティ産業クラスター形成・拡大」の中心企画企業のひとつであり、サケ鼻軟骨由来プロテオグリカン画分（PG）など天然素材の研究開発原料メーカーとして国内無二の一丸ファルコス株式会社から、二年間の予

定で寄附講座を設置していただきました。私たちは毎日食事として多くの天然素材を経口摂取しており、その中に高分子物質も多く含まれます。現在、天然由来の食物素材の生理活性を調べる研究が盛んで、いろいろな素材でさまざまな生理活性が報告されています。ある素材が経口摂取で生理活性を示す場合、消化管で分解・吸収され血流に乗って局所に達し、その部位で直接作用す

る、というメカニズムが科学的に納得しやすいです。一方、高分子素材の場合、消化管で分解・吸収「されにくい」あるいは「されない」分子も少なくありません。それでは、分解されない分子は単に体内を通過排泄されて、生体に対し何も影響しないのか？と言えば、そうとも言えません。たとえば、食物繊維は消化されず役に立たない成分とされていましたが、最近では腸内環境を整え腸内細菌に

よる発酵産物（短鎖脂肪酸など）を介して免疫制御作用を発揮するなど、さまざまな疾患の予防に役立つことが注目されています。私たちは、PG画分に免疫制御作用があることを発見し、その作用メカニズムを解析してきました。その結果、経口摂取しても分解・吸収する可能性は少ないが、腸内細菌フローラを改善すること、腸管免疫組織において、炎症を惹起するヘルパーT細胞1型（TH1）細胞やTH17細胞の誘導を抑制すると同時に、過剰な免疫応答を制御する制御性T細胞を増加させることを明らかにしました。ただし、その免疫制御作用は、免疫抑制剤のような免疫不全を来すものではありません。従って、腸内細菌フローラ依存性の腸管免疫制御を介して、さまざまな部位で抗炎症作用を示すものと考えています。事実、PG画分の経口投与により、炎症性腸疾患のみならず、実験的アレルギー脳炎、関節炎、喘息といった各部位の疾患マウスモデルで予防効果を示します。強

調したいのは、このような分子については直接作用ではなく間接的な総合作用であることです。PG画分は純品とは言えないということと、間接的な総合作用であるということで、科学的にその作用が懷疑的に思われることが多いです。しかし、逆説的にいえば、そうであるが故に多機能を有するものと考えられます。歴史的に粗画分で生理機能があっても、その有効成分を純化して行くに従って活性が消えていくということも良くある話です。そうは言っても、科学の世界で生きている人間ですから、科学的に説明できる研究をさげに掘り下げなくてはならないと考えています。PGなど天然高分子物質の作用が、専門知識のない一般社会で受け入れられても、科学の世界で受け入れられなければならない科学者として失格です。寄附講座では、専門家にも受け入れられるような「天然由来高分子物質のサイエンス研究」を行っていきますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

前COI拠点への参画）が始まりました。自然と研究の話が進み、共同研究講座の話に発展しました。そして共同研究講座「先制栄養医学講座」が平成二十九年二月一日に設置されました。先制栄養医学とは、未病段階からの栄養状況（摂取・代謝）を把握し、栄養学の観点から疾病予防・健康増進を積極的に推進するための学問領域です。通常の公衆栄養あるいは疾病予防・健康増進の一部というところえ方だけではなく、予防・健康増進により力点を置き、他の健康関連要素との総合的関連性を重視するところにその特徴があります。「先制栄養医学」とは協和発酵バイオと当方が頭をひねって作り上げたいわば造語のようなものです。その新しさの中に両者の健康を追い求める強い願いが込められています。

具体的研究は岩木健康増進プロジェクトのビッグデータからアミノ酸の存在意義を科学的に追及することになります。その解析範囲は広く、体力・運動能力から腸内細菌、ゲノムにまでわたります。出合いは不思議です。協和発酵バイオという会社の持つ魅力に出会い、当然のごとく共同作業が始まりました。やがては、両者がせめぎ合い協力し合って大きな花を咲かせたいと考えています。医学研究科の皆様今後とも当講座をよろしく願っています。

講座名：先制栄養医学講座
特任教授：中路重之
講師：倉内静香
助手：小笠原悠
特任准教授：小松美穂
期間：二〇一七年二月一日（二〇一九年一月三十一日



長稿
科 寄
研 究
部 長
学 医

医学教育分野別評価の

受審に向けて

医学研究科長 若林孝一



弘前大学医学部医学科は二〇二〇年度に医学教育分野別評価（いわゆる認証評価）を受審することが決定しています。今回は認証評価に向けて何を準備すべきなのか、その要点を紹介したいと思います。

この評価制度が立ち上げられることになった発端は、国際基準に認定されていない医学部の卒業生には ECFMG の申請を認めない、つまり米国への臨床留学ができないという宣言が二〇一〇年になされたことにあります。そして国内の公的機関が実施する認証評価が国際的に認められる必要があることから、二〇一六年に日本医学教育評価機構が発足し、今年の三月に世界医学教育連盟（WFME）から医学教育分野別評価認定機関として認定されました。現在、認証評価の唯一の国際基準は二〇〇三年に制定された WFME のグローバルスタンダードです。二〇一五年に小改訂された基準をみると、①使命と学修成果、②教育プログラム、③学生の評価、④学生、⑤教員、⑥教育資源、⑦プログラム評価、⑧統轄及び管理運営、⑨継続的改

良の九章からなり、全体で一〇六の基本的水準と九〇の質的向上のための水準が定められています。そこでグローバルスタンダードの各項目をチェックし、弘前大学医学部に足りない項目を洗い出してみることになりました。その結果、認証評価に向けて早急に取り組むべきこととして以下の事項が挙げられます。まず、人員、組織面では、医学教育センターの実質化、データの収集と解析を行う IR 部門の設置、医学教育に関する

専任教員、「責任と権限を有する」カリキュラム委員会（学生も委員に加える）、女性教員の増加（特に女性教授）などが挙げられます。さらに、教育の内容及制度に関しては、多職種連携教育、海外での研修、すべての学年で PBL 教育、修学不十分な学生への個別対応（メンター制度）、シラバスや教育リソースに学生が自宅から容易にアクセスできるシステム、カリキュラムの統合、カリキュラムのコード化などが

あります。さらに、臨床実習に関連する項目も多く、例えば、重要な診療科での実習時間の確保、全臨床実習期間の確保（七十二週）、診療参加度の高い臨床実習、臨床実習後 OSCE の実施、学外病院の指導者に対する講習会、臨床実習開始前（二、四年次）の病棟での実習なども求められます。教育者の視点だけでなく、学習者の視点で教育を考える必要もあると感じました。

なお、今回述べたことは認証評価に向けて準備すべきことの一部です。医学教育の質を保証する責任は医学部にあるのであり、教職員が一丸となって学部全体で準備を進めてゆく必要があります。

弘前大学医学部附属病院における 初の脳死判定・臓器提供手術を終えて

副病院長 伊藤悦朗
（小児科学講座 教授）

弘前大学医学部附属病院に入院していた六十代の女性患者が平成二十九年二月十八日に脳死と判定され、平成二十九年二月十九日（日曜日）に本院では初めてとなる「脳死下臓器提供」が行われました。脳死下臓器提供はこれまでに青森県内では五例の実績があり、今回が六例目でした。

女性患者の原疾患は低酸素性脳症で、二月十七日と十八日に計二回の脳死判定を受け、「臓器の移植に関する法律」に基づき脳死と判定されました。女性は健康保険証に臓器提供の意思を示しており、患者ご家族からも臓器提供の申し出がありました。

臓器摘出術は、二月十九日の未明から早朝にかけて、移植を行う各病院の摘出チームによって行われました。心臓と小腸の移植は医学的な理由で断念されましたが、両肺、肝臓、脾臓と両腎臓が摘出されました。三時五十分に摘出チームが手術室に入室し、五時

を重ねた結果、附属病院を将来窮地に追い込むような再々開発のスタートは好ましくないと判断し、今回の整備計画案をいったん白紙にいたしました。

この新棟を両病棟改修工事期間の移転先として使用し、改修工事終了後には「先進医療棟（仮称）」として再整備するという計画でした。平成二十八年、この整備計画案をもって概算要求事業として文科省に申請しましたが、皆さんがご存じのように採択には至りませんでした。文科省からは、「今後必要となる外来診療棟や中央診療棟の改修を見据えた計画」となっていないとの指摘を受けています。確かに今回作成した整備計画案では、将来の外来診療棟や中央診療棟の改修に行き詰まる可能性がります。関係各位と種々議論

二十分に摘出術が開始されました。両肺、肝臓、脾臓と両腎臓が順次摘出され、八時十分にすべての臓器摘出術が終了しました。摘出された臓器は、直ちにそれぞれの移植チームに引き渡され、両肺は京都大学医学部附属病院で五十代女性に、肝臓は九州大学病院で四十代女性に、脾臓と左の腎臓は東京女子医科大学病院で六十代女性に、右の腎臓は鷹揚郷腎研究所弘前病院で三十代男性に無事移植されました。なお、鷹揚郷

腎研究所弘前病院では、泌尿器科大山力教授が執刀され、同日二十一時四十分は無事移植術が終了しました。

本院では初めての「脳死下臓器提供」でありましたが、医事課を中心とした病院事務部、高度救命救急センター、手術部、看護部や病理部など附属病院のスタッフが一丸となって、臓器移植検討委員会の開催、脳死判定医や脳波判定医の選任などを迅速に行うことができました。また、移植コーディネーターの方々からは適切なアドバイスを提供していただき、ご家族への対応、様々な手続き、臓器の引き渡しなど滞りなく行うことができました。

二〇一〇年七月に「臓器の移植に関する法律」の改定により、本人の臓器提供に関する生前の意思が不明であっても、家族の承諾があれば脳死下臓器提供が可能となりました。また、十五歳未満の小児からの脳死下臓器提供も可能となりました。このため、二〇一〇年を境に臓器提供件数が大幅に増加し、二〇一六年の年間提供数は六十四件に達しています。本院においても高度救命救急センターが活発に機能しており、今後「脳死下臓器提供」の機会も増えることが予想されます。今回の経験を通して、まだまだ不備な点や問題点も浮かび上がり、今後その整備を進める必要があることも明らかになりました。

最後に、今回の「脳死下臓器提供」に貢献していただきました院内外の皆様にご協力のおかげで御礼申し上げます。

病院再々開発に向けて

附属病院長 福田眞作



という課題は、当院の避けて通れない重要な課題であることは皆さんも感じておられると思います。

平成二十六年十二月、藤哲前病院長を中心として、老朽化した病棟の再々開発（整備）の議論がスタートしました。某専門業者に委託のうえ、建築基準法上の許容面積、史跡の問題（弘前市、文化庁との交渉）等の難題をクリアすべく関係機関との協議を重ね、また各診療科のご意見を伺ったうえで、平成二十七年十月最終整備計画案が完成しました。敷地内の駐車場に新棟（延べ面積Ⅱ約八八〇〇平方メートル）を建設し、

附属病院の第一次再開発が始まったのが昭和六十二年。第一病棟、第二病棟、中央診療棟、外来診療棟、高度救命救急センターの整備を経て、平成二十三年地下駐車場の完成をもって当初計画の再整備事業が終了しました。すでに第一病棟が完成してから約三十年が経過したことになります。この老朽化した病棟の改修

この新棟を両病棟改修工事期間の移転先として使用し、改修工事終了後には「先進医療棟（仮称）」として再整備するという計画でした。平成二十八年、この整備計画案をもって概算要求事業として文科省に申請しましたが、皆さんがご存じのように採択には至りませんでした。文科省からは、「今後必要となる外来診療棟や中央診療棟の改修を見据えた計画」となっていないとの指摘を受けています。確かに今回作成した整備計画案では、将来の外来診療棟や中央診療棟の改修に行き詰まる可能性がります。関係各位と種々議論

この新棟を両病棟改修工事期間の移転先として使用し、改修工事終了後には「先進医療棟（仮称）」として再整備するという計画でした。平成二十八年、この整備計画案をもって概算要求事業として文科省に申請しましたが、皆さんがご存じのように採択には至りませんでした。文科省からは、「今後必要となる外来診療棟や中央診療棟の改修を見据えた計画」となっていないとの指摘を受けています。確かに今回作成した整備計画案では、将来の外来診療棟や中央診療棟の改修に行き詰まる可能性がります。関係各位と種々議論

この新棟を両病棟改修工事期間の移転先として使用し、改修工事終了後には「先進医療棟（仮称）」として再整備するという計画でした。平成二十八年、この整備計画案をもって概算要求事業として文科省に申請しましたが、皆さんがご存じのように採択には至りませんでした。文科省からは、「今後必要となる外来診療棟や中央診療棟の改修を見据えた計画」となっていないとの指摘を受けています。確かに今回作成した整備計画案では、将来の外来診療棟や中央診療棟の改修に行き詰まる可能性がります。関係各位と種々議論



この新棟を両病棟改修工事期間の移転先として使用し、改修工事終了後には「先進医療棟（仮称）」として再整備するという計画でした。平成二十八年、この整備計画案をもって概算要求事業として文科省に申請しましたが、皆さんがご存じのように採択には至りませんでした。文科省からは、「今後必要となる外来診療棟や中央診療棟の改修を見据えた計画」となっていないとの指摘を受けています。確かに今回作成した整備計画案では、将来の外来診療棟や中央診療棟の改修に行き詰まる可能性がります。関係各位と種々議論

平成28年度 最終講義

中根 明夫 教授（感染生体防御学講座）
中路 重之 教授（社会医学講座）
早狩 誠 教授（薬剤学講座）

学務委員長 鬼 島 宏
（病理生命科学講座 教授）



平成二十八年度最終講義が、平成二十九年三月十三日に基礎大講堂にて行われました。今年度退任される先生方は三名おられ、中根明夫教授（感染生体防御学講座）、中路重之教授（社会医学講座）、早狩誠教授（薬剤学講座）が最終講義を担当されました。

中根明夫教授による「細菌と多くの方々に支えられて」・北海道で細菌学の奥深さに魅せられ、細菌学を志すこととなった経緯や、

弘前では寄生虫学講座との統合により、感染症全般に加えて生体防御機構としての免疫学領域の教育研究に従事することとなった流れが示されました。講義の中では、何よりも研究内容自体について詳しく解説されたことが印象的でした。微生物という、一見微小な領域と誤解されがちですが、そこには極めて緻密かつ複雑なメカニズムが機能しており、その一つ一つの機序解明にはロマンが含まれている旨のメッセージが含まれたアカデミックな講義でした。

中路重之教授による「弘前大学での四十年」・地域に密着した衛生学と、グローバルな視点に立つ公衆衛生学が融合して新たな社会医学講座が設立された経緯をたどり、大学内部の教育研究領域にとどまらず、

自らが社会に出て実践する態度の重要性を示されました。唯一無二の社会医学を実現した領域には、スポーツ医学あり、岩木プロジェクトありでした。特に岩木プロジェクトに関しては、発展的にCOI (Center of Innovation) 革新的イノベーション創出プログラムに採択され、「革新的健康や力創造拠点」として、弘前大学の最重要プロジェクトに発展していることが提示されました。



早狩誠教授による「安全・適正な薬物療法への貢献」・附属病院薬剤部を担当し始めた当時は、院内薬剤師の数も限られており、薬剤に関する院内の理解も不十分であったそうです。薬剤師の増員を実現するとともに、各々の薬剤師の質的向上を図るシステム作りが大変努力されたことが示されました。今もって、医師を含む全ての医療従事者が「くすり」に対して正しい理解をしているとは言い難く、このことが医療事故



を惹起しかねないことを強調されました。医薬品と医療事故との関わり、事故防止のための医薬品安全管理の重要性を理解することが出来た感銘の講義でした。

三名の先生方ともに、各医学分野において、新たな専門領域を立ち上げ、発展させてきたことが示されました。充実かつ圧巻の講義でした。講義終了後には多数の花束贈呈があり、会場を埋めた聴衆から大きな拍手が送られました。最後に医学研究科長から謝辞があり、最終講義の幕が閉じられました。

三名の先生方は、齢六十五歳を迎えられたとは思えないほど、若々しく、バイタリティーに溢れており、素晴らしい（失敬な表現をお許しください）。事実、先生方は、四月より新天地にてフルタイムの勤務をこなされるそうで、定年退任の言葉

地域医療学講座
研究成果発表会

津軽（西北五）地域における 医療の現状および今後の課題

医学部附属病院長 福田 眞 作
（前、地域医療学講座 教授）

平成二十二年につがる西北五広域連合からの寄附講座として地域医療学講座が誕生しました。平成二十一年に策定された県地域医療再生計画に基づき、西北五地域保健医療圏における地域医療の充実を図ることを目的としたものです。私が初代の教授（併任）を任せられ、専任の教員四名、事務員二名という構成で講座を運営してまいりました。毎年の年度事業計画に「当講座のこれまでの研究成果に関する市民公開講座等を開催し、圏域の医療の現状と今後の課題について広く情報を発信する」と記載しており、なかなか実現できずに六年が経過してしまいました。この寄附講座は、つがる西北五広域連合の格別のご配慮によって平成二十八年以降も継続いただけることになりました。そこで、これまでの弘前大学医学部、とりわけ地域医療学講座の果たした役割を総括すべく、今回の研究成果発表会を企画させていただきました。開催にあたり、ご協力いただきましたは、全く以って相応しくない感じの講義でした。

弘前大学医学研究科の発展に長きにわたり尽力されてきた中根先生、中路先生、早狩先生に感謝を申し上げますとともに、今後とも医学研究科にお力添えをいただきますよう、お願いを申し上げます。

たつがる西北五広域連合の皆さんに心から感謝申し上げます。

研究科長若林孝一先生にご司会を担当いただき、私からは「西北五圏域における医療の在り方と今後の課題」についてお話ししました。寄附講座の設置および圏域の病院の機能再編成によって、危機的状況にあった西北五地域の医療の充実が図られたこと、そして残された課題と今後の不安要因についてもお話ししました。参加者からは、救急医療の問題やそれに伴う中核病院（つがる総合病院）の医師の過重労働など、現場ではまだまだ医師不足は解消されていないとの意見がありました。引き続き各診療科のご協力を仰ぎながらこの圏域の地域医療を充実させていきたいと思っています。

地域医療学講座では、青森県特に津軽地域の医療において重要な疾患（がん、糖尿病、心血管疾患、腎疾患など）に関する基礎的・臨床的研究を推進しております。今回は、消化器血液内科学講座准教授の下山克先生から「つがる市の若年成人のピロリ菌感染と新しい胃がん予防」について、地域医療学講座准教授（腎臓内科）中村典雄先生から「青森県



今回、非常に多くの市民・町民ならびに医療従事者の皆さんに参加いただきました（三百名）。この圏域の皆さんの医療に関する関心の高さの現れだと思います。市民向けの公開講座の開催や医療従事者向けの医療連携に関する研究会の立ち上げなど、市民・町民の健康増進、圏域の医療のさらなる充実にも今後とも貢献してまいりたいと思います。

スパズム・シンポジウムにて

優秀論文賞を受賞して

附属病院 脳神経外科 助教 松田 尚也

この度第三十三回スパズム・シンポジウムにおいて、優秀論文賞を受賞致しました。スパズム・シンポジウムは、「STROKE」という日本脳卒中学会、日本脳卒中外科学術集会と合同で開催される国内脳卒中関連学術集会の中で一番大きな学会です。STROKEには、脳神経外科医に限らず、脳卒中に関わる内科、外科、基礎研究者すべてが参加し、今年は六千七百名を超える規模でありました。そのような大規模な学会の、名誉な賞を受賞できたことは身に余る光栄です。スパズム・シンポジウムは cerebral vasospasm（脳血管攣縮）を始めとするくも膜下出血後の諸病態を議論するシンポジウムであり、優秀論文賞は

前年度に発表された論文を対象に選ばれます。この度受賞した論文は、「Effect of Cilostazol on Cerebral Vasospasm and Outcome in Patients with Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage: a Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Trial」というタイトルで Cerebrovascular Diseases (2016; 42: 97-105) に発表されたものです。脳動脈瘤性くも膜下出血症例におけるシロスタゾールの脳血管攣縮予防効果と予後向上効果を Randomized Controlled Trial (RCT) で証明したもので、三年間、科を挙げて取り組んだ臨床研究です。脳血管攣縮はくも膜下出血後の続発症の一つで、急性期に脳血管の持続的収縮が起こり、脳虚血を来た



す病態です。破裂脳動脈瘤根治術施行後にも、脳血管攣縮が原因で致命的になることもあり、くも膜下出血の最大の予後不良因子です。シロスタゾールは抗血小板作用があり脳梗塞、慢

性動脈閉塞症に一般的に処方されますが、血管拡張作用や、頭蓋内微小循環改善作用の報告もあり、本研究では脳血管攣縮抑制効果及び予後改善効果を証明することが出来ました。また、本研究は大学病院脳神経外科だけではなく黒石病院、青森市民病院を含む多施設研究でもあり、この点も評価に繋がったと考えます。県内多施設で協力することで本研究の様な有意義な研

究成果を上げることが可能と思われれます。これからも脳卒中多発地域である青森県における脳疾患研究を継続していく所存です。



平成28年度日本消化器病学会東北支部

学術奨励賞を受賞して

青森労災病院 消化器内科 (元・地域総合診療医学推進学講座 助手)

五十嵐

剛



二〇一七年二月六日に日本消化器病学会東北支部例会が福島で開催され、学術奨励賞を受賞することができましたので、ご報告させていただきます。

学術奨励賞とは、日本消化器病学会東北支部学会活動の活性化の一貫として、東北地区における若手研究者・臨床医の育成を目的として、平成二十四年に創設されました。私のようなものが、このような名誉な賞を頂けたのは、偏にご指導頂いた先生方の御尽力の賜物であり、この場をお借りして感謝申し上げます。

今回受賞した演題は「AIH-PSC overlap syndromeの二例」です。自己免疫性肝炎（AIH）や原発性硬化性胆管炎（PSC）は代表的な自己免疫性肝胆管疾患であり、それぞれが特徴的な臨床病理像を呈しますが、少数例では病像が重なって見られ、これらの症例はオーバーラップ症候群と呼ばれてきまし

た。しかし、本邦における報告は極めて稀少で、更に診断基準に関して controversial な点があるという背景があり、症例の集積が大切と考え報告しました。本症例を通して、自己免疫性肝疾患の経過中に従来の治療に抵抗性となった場合や、診断時とは異なる肝胆道系酵素の変動パターンを呈した場合、オーバーラップの可能性を疑い、検査を追加し治療を見直すことが必要と感じました。AIHとPSCのどちらが病

平成28年度弘前大学

脳神経病理学講座 助教 三木 康生

今回受賞対象となった論文は、「Alteration of upstream proteins of autophagy (ULK1, ULK2, VPS34, AMBRA1 and Beclin1) in Lewy body disease」(Brain Pathology誌に掲載されました。オートファジーは細胞質成分や異常タンパク質をリソソームにおいて分解するタンパク質分解機構の一つであり、細胞内のホメオスタシスを維持する重要な機構です。オートファジーは、細胞質内の隔離膜が細胞質成分や異常タンパク質を取り囲むオートファゴソームが形成される過程と、リソ

ソームによりオートファゴソーム内のタンパク質が分解される過程に大別され、ULK1、ULK2、VPS34、Beclin、AMBRA1はオートファゴソームの形成を開始する主要な上流タンパク質です。

はオートファジー上流の機能異常が存在することが明らかになりました。さらに、私たちはグリア細胞質内における α シヌクレインの蓄積を病理学的特徴とする多系統萎縮症(MSA)についてもオートファジー

ソームによりオートファゴソーム内のタンパク質が分解される過程に大別され、ULK1、ULK2、VPS34、Beclin、AMBRA1はオートファゴソームの形成を開始する主要な上流タンパク質です。

レヴィ小体病（パーキンソン病(PD)やレヴィ小体型認知症)は神経細胞内におけるレヴィ小体の出現を病理学的特徴とし、オートファジーの異常が病態に関与していることが知られていますが、オートファジー上流分子がレヴィ小体病の病態にどのように関与しているかは知られていません。そこで、レヴィ小体病におけるオートファジー上流タンパク質の局在ならびにその発現量を、PDモデル細胞ならびに剖検脳組織(ホルマリン固定および凍結)を用いて検討したところ、レヴィ小体病で



(前ページより)
上流分子が病態にどのような関与するかを検討しました。MSAの病態において、レヴィ小体病とは異なるオートファジー上流の機能異常が生じていること、AMBRA1はミシヌクレインの結合タンパク質であること、AMBRA1は治療のターゲットとなりうることを明らかにし、こ



ちもBrain Pathology誌に報告しました。私たちは、レヴィ小体病やMSAの病態において、オートファ

ジーの機能を維持、活性化することで病態の進行を抑制できるのではないかと考えており、現在研究を進めているところです。
最後に、今回の受賞にあたり、選考委員の先生方、若林孝一教授、そして教室の先生方や技術補佐員の方々に深く感謝申し上げます。今後さらに研究に邁進していく所存ですので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

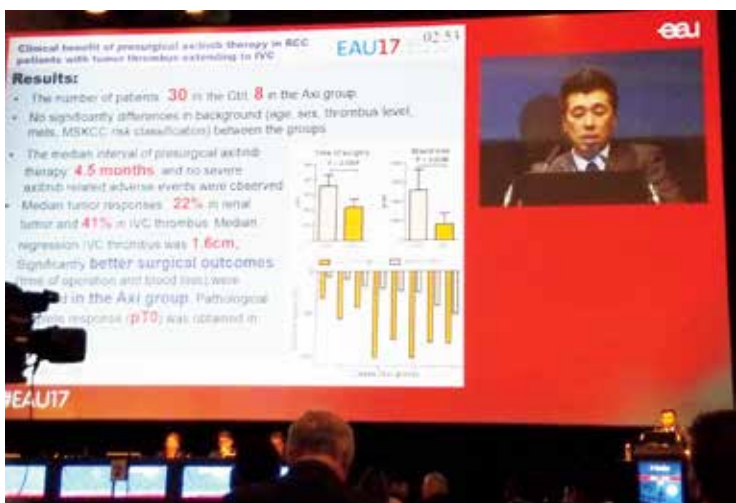
第32回欧州泌尿器科学会 ベストポスター賞を受賞して

附属病院 泌尿器科

講師 畠山真吾

二〇一七年三月二十四日よりロンドンにて行われた第三十二回欧州泌尿器科学会においてGeriatrics in urological disorder部門でベストポスター賞を受賞いたしましたのでご報告いたします。受賞した演題は、「Gait speed is useful tool to evaluate frailty in urological cancer patients」です。

社会の高齢化に伴い泌尿器癌患者も高齢化が進んでいます。歴年齢は重要な因子ですが、暦年齢が必ずしも患者のリスクや治療の忍容性(脆弱性=フレイル)を反映しません。フレイルの評価法はいくつか提唱されていますが、精度の高い評価をするためには、多くの項目(最大七十項目)を調査する必要があります。そのため、実臨床に広く応用可能な手法の開発が求められて



います。この問題を解決するために、私たちは、弘前大学附属病院において、泌尿器癌で入院し治療を行っ

た、健常コントロールとして、岩木町健康プロジェクトロジェクト参加者のデータを用い、定量化可能なフレイル項目を検討しました。その結果、歩行スピードと血清アルブミン値が泌尿器がん患者に共通して低下していることが明らかになりました。

附属病院 泌尿器科

助教 及川真亮

この度、二〇一七年三月二十四日よりロンドンにて行われた第三十二回欧州泌尿器科学会においてベストポスター賞を受賞させて頂き、大変光栄に感じております。今回受賞した演題は「Significance of serum N-glycan profiling as a diagnostic biomarker in urothelial carcinoma」です。

尿路上皮癌の診断方法は膀胱鏡や尿管鏡などの侵襲を伴う検査やMRI・CT検査が必要です。しかしながら、微小病変や早期の癌に対する検査としては、感

この度、私達の研究が評価され、総会賞を獲得できたことは大変喜ばしいことであり、今回の受賞を励みに、簡便かつ臨床応用可能なフレイル評価ツールの開発を目指して肅々と研究を進めたいと考えております。最後になりましたが、本研究のご指導を頂きました泌尿器科学講座の大山力教授、他様々な面でサポートして頂いた教室の皆様、岩木町プロジェクトに参加の皆様がこの場をお借りして厚く御礼申し上げますとともに引き続きご指導賜りたく存じます。



二〇一七年三月二十四日から二十八日にかけて英国、ロンドンにて開催された欧州泌尿器科学会において、Best poster Awardを受賞致しました。今回受賞の対象となった演題名は「An automated-microcapillary electrophoresis-based immunoassay system may improve diagnostic accuracy of prostate cancer and be a good indicator of biopsy Gleason score」です。本発表では、前立腺癌の診断技術において、従来の検査法では限界のあった精度の向上と過剰診断の問題解決に期待が高まってきた背景として、新たな診断マーカーの開発に注力した研究成果を報告しました。我々の研究室では、特定

羅的に解析し、新規診断マーカーの可能性を検討しました。グライコプロッティング法とは血清中の糖鎖を特殊なビーズを用いて回収し、糖鎖のみを分離し

質量分析装置で同定できる画期的な手法です。この方法により、少量の血清から糖鎖の網羅的解析が可能となりました。治療前の尿路上皮癌患者二百十二名と健



常コントロール群二百十二名において、糖鎖(Mglycan)発現強度を測定し比較すると、癌患者と健常コントロールとに大きな差がある糖鎖を同定することができました。2群間で有意差を認めた糖鎖から、糖鎖スコアを作成し、ROC曲線で解析したところ精度の高い腫瘍マーカーであることが証明されました。これら糖鎖性変化の検出は非侵襲的であり、感度・特異度の高い検査であると考えられます。

今回の受賞にあたり本研究のご指導を頂きました泌尿器科講座の大山力教授、畠山真吾講師、泌尿器科学講座の皆様深く感謝申し上げます。

泌尿器科学講座

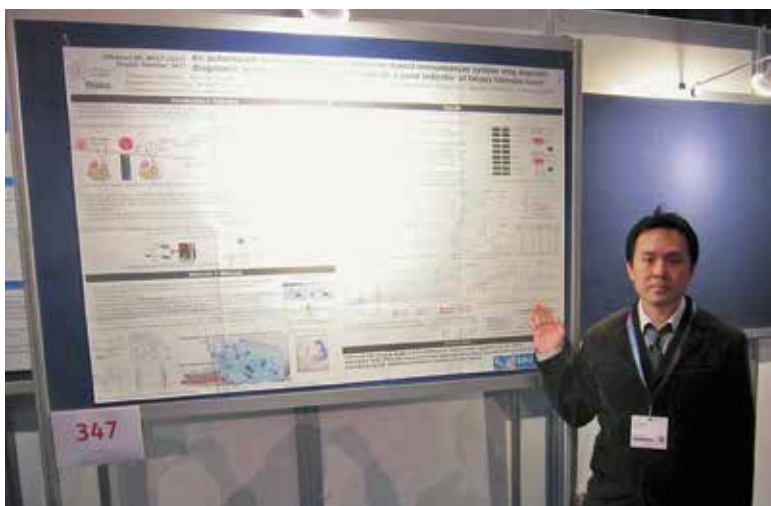
大学院三年生

石川友一

の疾患(癌など)に由来するタンパク質上の糖鎖構造

子との関連性において、悪性度の高い症例ではSS3PSA比率が有意に高値となる傾向があり、さらなる臨床有用性が見出されてきたところです。

今回の受賞は、熱心にご指導頂きました大山教授ならびに諸先生方、教職員の方々のご支援があつてこそのものであり、心より感謝申し上げます。今後とも、得られた研究成果の社会への還元を果たす事を目標として、一層努力していく所存で御座いま



附属病院のロボット手術が500件を 超え、製造元の米国インテュイ イブ社から表彰楯を授与

泌尿器科学講座 教授 大山 力

附属病院では二〇一一年四月に東北・北海道で最も早く手術用ロボット：ダヴィンチSを導入しました。二〇一二年四月にはロボット支援下前立腺全摘除術（RARP）が保険収載されましたが、ロボット手術を希望する患者が急増したため、RARPの待機時間が長期化してしまいました。そこで、院内の皆様のご支援と法人本部のご配慮

を頂き、二〇一三年二月一日、第二世代のダヴィンチSiを導入して頂きました。Siの特徴は、①超音波駆動メスを装着可能であること、②術者コンソールが二つ装備されていること、③術者コンソールがコンパクトになったことでした。特に②は手術教育に威力を発揮します。指導医と若手医師が同じ3D画面を見ながら手術ができ、フットペダ

らに操作性、安全性が向上し、次期保険収載を目指している膀胱全摘除術+回腸新膀胱造設術に威力を発揮します。安全で質の高い医療を提供しつつ、特定機能病院の役目である高度医療の開発と普及に尽力して参りますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。本院のロボット手術が安全に大過なく実施できておりますことに感謝申し上げます。



弘大病院が参加した国際共同 臨床試験を根拠にFDAが ニボルマブを緊急承認しました

泌尿器科学講座 教授 大山 力

二〇一七年二月二日、FDA（米国食品医薬品局）がニボルマブの尿路上皮がんへの適応を緊急承認しました。この承認の根拠が、本年一月二十五日Lancet Oncology誌に掲載されたCheckMate 575試験の結果でした。この臨床試験には世界十一カ国から六十三施設が参加しましたが、この中で本院が日本から一施設のみ共著者として記載されています。登録症例数が最も多かったことと、データの質が高かったことが評価

されました。現在、がんの薬物治療は大きな転換期を迎えており、従来の化学療法剤から分子標的薬、患者個人の遺伝情報を考慮した個別化医療、そして免疫チェックポイント阻害剤の適応拡大の時代に入っています。新薬の開発には巨額の費用がかかりますが、それに伴って莫大な医療費増加という問題も持ち上がりますが、がんに苦しむ患者さんの立場に立つと、よく効いて副作用が軽い薬の出現ほどありがたいものはありません。

新しい抗がん剤が臨床現場で使用できるようになるまでは、多くの関門が存在します。新薬の安全性と有効性を確認するため、各種臨床試験が実施されますが、弘大病院のなかで、この臨床試験を管理、実施しているのが臨床試

（次ページへ続く）

日本学術振興会の学術システム研究 センター専門研究員に選出されて

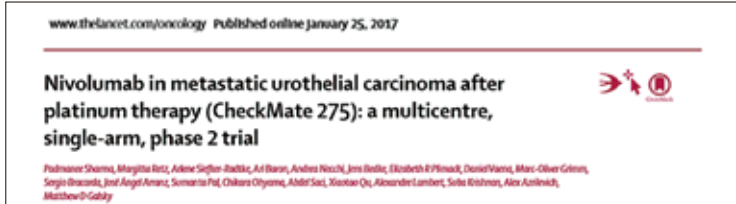
麻酔科学講座 教授 廣田 和美



この度、日本学術振興会（JSPS）内、学術システム研究センター医歯薬学専門調査班専門研究員に選出されました。選出されたことに正直驚きましたが、非常に名誉なことであり、また今までの研究業績が認められたわけで、素直に喜びたいと思います。推薦下さいました若林研究科長にこの場を借りて感謝申し上げます。

言います。さて、JSPSと云えば、科学研究費（科研費）助成事業と云います。これが総予算の約九〇％を占めます。その他の主な事業は、海外派遣も含めた若手研究者養成を目的とした研究者養成事業七％と国際共同研究や海外研究者の招聘などを目的とした国際交流事業二・四％です。学術システム研究センターという組織は、所長一名、副所長三名、相談役一名で構成されるプログラムディレクターの下に、九の専門調査班（人文学、社会科学、数物系科学、化学、工学系科学、生物系科学、農学、医学、歯学、総合系）と特命事

項担当があり、各々の調査班にプログラムオフィサーとして主任研究員二名と専門研究員八〜二十一名が所属しています。そしてセンターは、科研費等の審査や採択そのものには一切かわらず、厳正で透明性の高い評価システム確立のために尽力しています。具体的には、審査委員候補案の作成、審査・評価結果の検証と分析（審査委員の評価等）を行います。その他、学術研究動向の調査・研究も任務の一つになっています。医歯薬学専門調査班の専門委員は八つの担当（薬学二名、基礎医学五名、境界医学・人間工学二名、社会医学一名、内科系臨床医学六名、外科系臨床医学四名、歯学二名、看護学一名）に分かれています。今回私は、外科系臨床医学担当で選ばれました。業務上の一番の問題は、多くの資料が



（前ページより）
験管理センターであり、臨床試験をサポートしてくれているのが治験コーディネーター：CRC（clinical research coordinator）の皆さん（写真）です。
「世界に発信し、地域と共に創造する」のが本学の理念です。附属病院は特定

機能病院として新しい医療を開発して提供していく責務を負っていますので、今回のエピソードはこれに合致するものとして紹介させて頂きました。本院の臨床試験管理センターとCRCの皆様のご尽力に感謝申し上げます。

第111回医師国家試験結果ならびに平成28年度卒業生進路状況

学務副委員長 梶田健一
（消化器外科学講座 教授）

平成二十九年二月十一日から三日間にわたって行われた第百十一回医師国家試験の結果が、三月七日厚生労働省から発表されました。全体の合格率は八八・七％、新卒者は九一・八％で、過去十年間で最も厳しい結果です。本学も新卒者の合格率は九〇・一％（一〇九／一二一）にとどまり、残念ながら国立大学平均の九三・八％を下回りました。予備校数社の総評を見ると、必修問題が全般に難しくなった、画像診断問題が増えた、臨床現場でしっかり実習しないと解けない良質な問題が多くなった、などの記載が多くありました。若林研究科長からは、今後は医師国家試験の合格率を抑制して合格者全体の質を向上させる、との国の意向も伝えられています。

H24～H28 卒業生進路状況

	H24年度卒業生進路		H25年度卒業生進路		H26年度卒業生進路		H27年度卒業生進路		H28年度卒業生進路	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
青森県	41	38.3%	46	41.8%	59	51.3%	50	41.3%	57	47.1%
北海道	7	6.5%	7	6.4%	6	5.2%	6	5.0%	2	1.7%
青森県以外の東北地方	16	15.0%	12	10.9%	9	7.8%	19	15.7%	14	11.6%
東京以外の関東地方	18	16.8%	19	17.3%	8	7.0%	21	17.4%	16	13.2%
東京都	5	4.7%	4	3.6%	14	12.2%	4	3.3%	11	9.1%
中部	6	5.6%	8	7.3%	5	4.3%	7	5.8%	5	4.1%
近畿以西	10	9.3%	7	6.4%	5	4.3%	7	5.8%	4	3.3%
国試不合格・その他	4	3.7%	7	6.4%	9	7.8%	7	5.8%	12	9.9%
合計	107	100.0%	110	100.0%	115	100.0%	121	100.0%	121	100.0%
医師国家試験合格者	103	96.3%	103	93.6%	108	93.9%	116	95.9%	109	90.1%

ただ、このような状況の中でも一〇〇％に近い合格率

平成28年度弘前大学学生表彰

教育委員会副委員長 鬼島宏
（病理生命科学講座 教授）

平成二十九年三月七日、平成二十八年度弘前大学学生表彰式が、文京地区の大学本部にて開催されました。弘前大学学生表彰は、当該年度ないしその前年度に課外活動・研究活動・社会活動等で顕著な成果を挙げた学生または団体が表彰されるに値するものが、全学の教育委員会で審議・選出されて、学長より表彰される制度です。今年度は医学科・医学研究科からは、以下の十一名（個人）および五団体が荣誉ある表彰を受けました。

をあげている大学も多くあります。能動的に臨床実習を行い、万全の試験準備を行えば結果は必ずついてきます。今後の学生諸君の奮起を期待します。

次に卒業生の進路状況を表に示します。初期研修地の地域分布は例年通りでした。卒業生の動向に影響を与える新専門医制度は二〇一八年の運用を目指して準備が進められていますが、現時点では確定していません。ただ、すでに暫定運用している小児科や整形外科の専攻医の動向を見る限り、むしろ地方での良質な教育環境が評価され、地方で専門研修を開始する専攻医が増えているようです。学生の皆さんも専門医制度の今後の動向に注目ください。

伊賀 千紘（五年）第33回日本受精着床学会にて世界体外受精会議記念賞
伊藤 真子（五年）第57回日本神経病理学会にて学生優秀ボスター賞
齋藤 哲（六年）研究論文がJournal of Infectious diseases（英文国際誌）に掲載
上野 浩太（六年）第50回全医体ソフトテニス男子ダブルス準優勝
木下 翔平（六年）第50回全医体ソフトテニス男子ダブルス準優勝
高橋 茜（五年）第58回東医体スキー女子回転優勝・大回転・複合優勝
宇佐美真太郎（六年）第58回東医体スキー男子回転・スーパード回転優勝
浦田 風（三年）第59回東医体陸上女子円盤投準優勝
黒岩 秀（四年）第28回北医体陸上男子100m優勝・400×4mリレー優勝
伊藤 真子（五年）第59回東医体陸上女子100mH準優勝
賀佐 一大（五年）第28回北医体陸上男子200m優勝・400×4mリレー優勝
医学部陸上競技部 第59回東医体女子フィールド準優勝
医学部準硬式野球部 第59回東医体準優勝
医学部ソフトテニス部 第59回東医体女子準優勝
医学部ラグビー部 第59回東医体準優勝
医学部バドミントン部 第46回北医体男子団体優勝

弘前大学医学部では、国家試験合格率のみならず、共用試験結果や臨床研修における卒業生の活躍など

で、全国的にも教育レベルが高い評価を受けるようになっていきます。加えて、今回の学生表彰者をはじめとして課外活動等の分野でも活躍してくれる学生が多いのは、頼もしい限りです。一昨年度より弘前大学の学生表彰採択が、より厳しい基準で行われたにもかかわらず、昨年度と同様に計十六個人・団体が被表彰となりました（二十七年度十六件、二十六年

り、被表彰団体をはじめとして各部活動がここ数年東医体等で好成績を続けているのは賞賛に値します。今後も、学生諸君が弘前大学医学部医学科で文武両道を実践するとともに、より一層充実した大学生活を送ることを期待しています。

件、二十三年度七件）。今年は、研究活動において顕著な成果を挙げた被表彰学部学生が五名と賞賛に値します（二十七年度〇名、二十六年



平成28年度弘前大学学生表彰表彰式

平成28年度医学科学位記伝達式

学務委員長 鬼島宏
（病理生命科学講座 教授）

平成二十九年三月二十三日午後三時三十分から基礎大講堂において、平成二十八年度学位記（医学士）伝達式が、佐藤敬学長ならびに西澤一治副学長、理事長ご列席のもとで行われました。今回、医学部医学科の卒業生は百二十一名であり、この中にはAO入試入学四十名、前期定着枠十四名、学

士青森県枠五名と多数の地域枠学生が含まれており、将来的に弘前医療圏での活躍が期待されています。多くの学生が勉学の苦勞を乗り越え、さらには国試合格の直後でもあり、会場内は笑顔の花が咲いていました。

伝達式では、若林孝一医学部長が卒業生一人一人と固い握手をかわしながら、学位記の伝達が行われました。会場を埋め尽くした卒業生に加えて、保護者やご来賓の方々、さらには教育指導にあたっ

た教員も、新たな門出の喜びを卒業生と共有しました。伝達式の後半では、若林医学部長から挨拶があり、高齢化社会の中での医療への期待の大きさに対し、地域医療の担い手であり、かつ世界をリードするようなプロフェッショナルとして実力を発揮していただきたい旨が強調されました。西澤副学長からは、同窓会の輪は全国に広がっていることなどのご紹介がありました。会場には金屏風と見事な花が添えられ、男子卒業生の凛々しいスーツ姿、女子卒業生の華麗な袴姿、着物姿も加わり、厳粛な中にも華やかな雰囲気のもとで、式が終了しました。

（次ページへ続く）



(前ページより)

昨年と異なり積雪の多かったこの冬でしたが、この日は春の訪れを感じるかの好天に恵まれた中、同日の午後七時からホテルニューキャッスルにおいて、医学部医学科第六十三回卒業記念謝恩会が開催されました。集合写真撮影後は、朴善基君、出崎莉恵さんによる明快な司会で開幕しました。若林医学部長、佐藤学長の祝辞があり、福田眞作病院長による乾杯の音頭がありました。会が始まると、各先生を囲み勉学やクラブ活動の想い出を振り返ったり、今後の進路について語り合ったりと、卒業生は限られた時間を惜しむように過ごしていました。会の途中では、ラグビー部によるスライド上映の余興や、恒例となった学長・医学部長とのジャンケン大会などで、会場は大いに沸き、あつという間の二時間が経ちました。最後に教授やご来賓の先生方が壇上に登り、卒業生から花束が贈られ、卒業生代表の村上圭秀君の謝辞で謝恩会が閉じられました。



一学年全員が集合する機会は、多分これが最後ではなからうかと思えます。弘前大学医学部医学科卒業という誇りを背負い、これから切磋琢磨して、全国で活躍してくれることを願うものです。

平成28年度 ベスト研修医賞選考会

卒後臨床研修センター長 加藤 博之

平成二十八年度ベスト研修医賞選考会が平成二十九年二月二十一日十八時より、医学部臨床小講義室で開催された。ベスト研修医賞は平成十六年度から始まった卒後臨床研修必修化に合わせて本学に創設された賞であり、今回で十三回目を迎える。当日は、あらかじめ卒後臨床研修センター運営委員会により優秀研修医に選ばれた、北山和敬先生、白鳥俊博先生、奈川大輝先生(五十音順)の三名の研修医が、「ここがポイント! 研修医の心がけ」と題し、自分が研修生



ベスト研修医賞選考会で研修医の発表に聞き入る参加者たち。



ベスト研修医賞の投票を行なう学生諸君。

活の中で重視してきた事について、一人八分間ずつスピーチを行なった。聴衆は学生および教職員で、スピーチのあと参加した学生諸君による投票が行なわれた。投票の結果、白鳥俊博先生が平成二十八年度ベスト研修医に選ばれた。引き続き附属病院内の弘仁会食堂で表彰式が行われ、白鳥先生に賞状、純銀製メダル、記念品が、北山先生、奈川先生には優秀研修医賞として賞状、楯、記念品が贈られた。その他にも各種特別賞として、今年度コメディカルスタッフから最も高い評価を受けた松原侑里先生に「ベストパートナーナー賞」、研修医が提出すべき各種症例レポートを最も頑張っ



福田病院長よりベスト研修医賞を贈呈される白鳥俊博先生。



福田病院長と共に、ベスト研修医賞、優秀研修医賞の先生方。



ベスト研修医に贈呈されたメダル(純銀製)。

優秀指導医賞」の発表が本年も行われ、会場は大いに盛り上がった。学生四十七名に教職員を加え総勢七十名以上の参加者があり、教職員、研修医、学生がみな、この一年の思い出について心ゆくまで語り合った。本賞の本学独自のユニークな特徴は、最終選考を学

ベスト研修医賞を受賞して

附属病院 呼吸器内科・感染症科 医員 白鳥 俊博 (元・研修医二年目)

私は、平成二十九年二月二十二日のベスト研修医選考会で僥越ではございますが、ベスト研修医賞を受賞いたしました。私がベスト研修医と呼ぶに相応しい人物であるとは、自分自身では思えませんが、ベスト研修医を受賞しましたことは大変うれしく思っています。これもご指導いただいた指導医の先生方、ともに切磋琢磨した同期の皆様、協力して仕事をしたスタッフの方々、ともに学んだ学生の皆様、そして妻をはじめ私を支えてくれた家族の力があってこそその受賞だと思っています。この場を借りまして、感謝を申し上げます。誠にありがとうございます。ベスト研修医選考会でも話しましたが、私が初期臨床研修で留意していたことについて少し触れたいと思います。そもそも、臨床研修制度の基本理念として、

最優秀指導医賞を受賞して

附属病院 小児科 助教 神 尾 卓哉

この度は最優秀指導医賞を頂きまして、誠にありがとうございます。私がこのような賞を受賞するとは、私だけでなく、私のことを良く知る諸先生方も、大変驚いていることと思います。驚いていることと、講義や臨床実習に熱心に取り組んでくださっている学生の皆様のおかげと思っております。また、私が学生へ指導している間、病棟業務をサポートしてくださった小児科血液グループの先生方や、学生の担当となった患者様とその家族の皆様にもこの場をお借りして、感謝申し上げます。私達小児科血液グループの医師は、主に小児がんのこども達の診療にあたっていました。幅広い視点で物事を考えることができるようになったと感じています。また、人としての成長は、多くの人との関わり合いによって成長すると考え、患者さん、指導医、同期、病棟スタッフに積極的に関わりました。さらに私事ですが、初期研修期間に結婚しもうすぐ一児の父となります。この経験は、私をさらに人として成長させてくれました。最後に、初期研修中は楽しんで能動的に診療してききました。ベスト研修医賞に恥じないようまだまだ続く医師として、人としての道のりを楽しんで歩んでいきたいと思っております。これからも診療、教育に励んでいきたいと思っております。

平成 29 年度 S D 章授与式

学務委員長 鬼 島 宏
(病理生命科学講座 教授)

平成二十九年度 S D (Student Doctor) 章授与式が、平成二十九年三月三十一日に基礎大講堂にて挙行された。授与式では新五年次学生が、医の倫理に従って行動することを誓うことで、臨床実習 (Bed side learning, BSL) を開始するという大きな意義があります。臨床実習では、医療現場で患者さんの前に立たせていただくことの責任の重さと、診療行為を通じて医学を学ばせていただくことへの感謝の念を持ちながら、医療チームの一員として真摯に行動することが求められています。

本学における S D 章授与式は、加藤博之教授 (総合診療医学講座) の発案で、平成十七年度から始まり、今回で十三回目となります。さらに平成二十六年度からは、共用試験 (Computer Based Testing CBT、および Objective Structured Clinical Examination OSCE) の合格者に対して、全国統一質保証システムの一環として、全国医学部長病院長会議が S D 認定証を付与することとなりました。つまり、S D 章は、臨床実習生の身分証 (ID) であると同時に、臨床実習を開始するための必要な知識と技能を身につけた証でもあります。



4. 私は、患者の健康を私の第一の関心事とします。

5. 私は、私への信頼のゆえに知り得た患者の秘密を、たとえその死後においても尊重します。

6. 私は、私を教え導く人々に尊敬と感謝の念を捧げます。

7. 私は、私の自由意志に

学部の知識を用いることはしません。

「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」

平成二十九年度二月二十二日に医学科 F D (Faculty Development) が開催されました。今回の F D は、東海大学医学部外科系小児外科学・教授の上野滋をお迎えし、F D 講演会 (主催：医学科学委員会、共催：カリキュラム WG 委員会・P B L 教育実施委員会) として開催されました。

弘前大学医学部医学科では、カリキュラム改編の一環として、平成二十九年度より四年次後期に P B L (Problem Based Learning) を導入します。これまでに P B L に基づくチュートリアル (Tutorial) 教育が行われてきましたが、従前の目的が、自学自修 (最近「修」の字を当てるのが一般的) に基づく病態解析でした。いわば、まだ学習していない領域の内容を調べたり、グループで討論したりしながら進行してゆく内容です。平成二十九年度より導入される P B L は、臨床医学の授業終了後で、

基つき名譽にかけてこれらのことを厳肅に誓います。

なお、この「誓い」を常に心に留めて臨床実習に臨むよう、付与された S D 章の裏には、「誓い」が印刷されています。S D 章授与式の目的を十分に理解して、五年次から始まる臨床実習に真摯に取り組んでほしいと思います。

平成 29 年度 P B L 開催にむけた F D 講演会

学務委員長 鬼 島 宏
(病理生命科学講座 教授)

臨床実習 (BSL, Bed Side Learning や Clinical Clerkship) の直前に位置付けられており、講義 (座学) で得た知識を咀嚼して、使える知識と技能に発展できるように教育目標が掲げられています。具体例としては、P B L 授業のステップごとに臨床画像や検査データが与えられ、それを理解することが求められます。

「東海大学における Tutorial 教育の実践と課題」主に P B L / チュートリアルについて」と題して行われました上野先生の講演では、長年蓄積された東海大学の事例が具体的に紹介されました。講演半ばで、東海大学での実際の P B L 授業の様子を、ビデオでも示していただきました。アメリカ式の Tutorial 教育は、全てが日本の医学教育に馴染むものではないので、折々に改編が繰り返されてきた旨の紹介もありました。診療参加型臨床実習と患者中心の医

「第 5 回世界自閉症啓発デー 記念イベント in 弘前」が開催されました。

神経精神医学講座 教授 中 村 和 彦

去る平成二十九年四月二日、弘前市において第五回世界自閉症啓発デー記念イベント in 弘前が開催されました。記念すべき五年目に弘前市のシンボルである弘前城天守がブルーにライトアップされました。

世界自閉症啓発デーは、国連の決議により平成十九年十二月に制定され、以後毎年四月二日を世界自閉症啓発デーとして、世界的に

自閉症を理解してもらうよううな取り組みがなされるようになってまいりました。我が国でも四月二日から八日を発達障害啓発週間とし、各地で様々なイベントが行われています。本県ではこれまで青森県が主催して青森市アスパムのブルーライトアップは行われてきました。が、昨年初めて弘前市で旧弘前市立図書館のブルーライトアップが実現し、そして本年はいよいよ弘前城がブルーライトアップされました。県内各地でイベントはあるものの、市町村の自治体が行うのは弘前市が初めてとなります。

ブルーは世界自閉症啓発デーのシンボルカラーであり、青色は希望や癒しを表すものと言われており、七年ほど前にニューヨークで行われたものが始まりで、以後世界各国で同様の試みがなされてお



第 5 回世界自閉症啓発デー 記念イベント in 弘前
2017年4月2日 (日)
15:30 ~ 17:30 シンポジウム
テーマ「特別な支援を必要とする子どもを育てる」
18:00 ~ 21:00 弘前城天守ブルーライトアップ
シンポジウム 15:30-17:30 弘前大学医学部コミュニケーションセンター
コーディネーター 栗林 雅人
◆ 宮崎 健治 (弘前大学医学部附属病院神経科)「子どもの人権」
◆ 笠立 啓祐 (弘前大学子どもの発達研究センター)「特別支援に求められるアセスメント」
◆ 土岐 真 (弘前大学学生特別支援センター)「インクルーシブ教育の現場から」
◆ 増田 貴人 (弘前大学教育学部特別支援教育専攻)「教育学部特別支援センターの取り組みから」
総合討論 副市長 山本 典 弘前市副市長
※シンポジウム後、弘前公園に移動
弘前城天守ブルーライトアップ 18:00-21:00 弘前公園本丸
主催：弘前大学教育学部附属発達障害研究センター、弘前大学学生特別支援センター、弘前大学教育学部、弘前市、弘前市発達障害者支援会
お問い合わせ先 弘前大学教育学部附属発達障害研究センター
〒030-8585 弘前市青森町 1-1-1 TEL: 0172-75-0000

す。今年は国内でも二百か所を超えるブルーライトアップが実施されており、今後もさらにライトアップの輪が広がっていくものと思われま



平成28年度

後期研究室研修優秀発表賞

脳血管病態学講座 教授 今 泉 忠 淳

平成二十八年度後期の「研究室研修」では、三次学生が医学研究科各講座のいずれかに配属され、十月から二月まで研修を行いました。平成二十九年二月八日から十日の三日間にわたり基礎大講堂で発表会を行い、同時に優秀発表賞の審査も行いました。カリキュラムの改訂にもなつて、今年からは英語での発表をもって「医学英語Ⅲ」の単位認定を行うことになり、全ての学生が英語で発表を行いました。学生一人あたりの持ち時間は、発表四分、質疑二分の計六分で、各発表につき三ないし四名の教員（延べ四十二名）が審査を行いました。その結果を集計し、上位三名（表）が優秀発表賞に選ばれました。

表 平成28年度後期研究室研修優秀発表賞受賞者（指導講座）

岩 間 海 仁（感染生体防御学講座）	（学籍番号順）
田 村 汐 織（分子病態病理学講座）	
山口谷 健（分子生体防御学講座）	



発表会では、原稿を棒読みし、発表するだけで精一杯という学生も少なくありませんでしたが、「聞いてくれる人たちに理解してもらえるように」という意識を持って発表するよう努めることが大事と感じました。優秀賞に選ばれた学生の発表は、いずれも、その分野の専門家でない聴衆にとつてもわかりやすい内容でした。その中で、田村汐織さんの発表はいわゆる「ネガティブデータ」でしたが、「自らが行った研究活動について、自分の英語で発表」したことが評価されたと思います。授賞式が二月二十四日に

優秀発表賞を受賞して

医学部医学科三年 岩 間 海 仁

医学部長室で行われ、それぞれの指導教員の出席の下、若林孝一医学部長から三名の学生に優秀発表賞の賞状と副賞の図書カードが贈呈されました。若林医学部長からは、「将来一線の臨床医として働くとしても、人生の一時期には（大学院に入学して）本格的に研究に取り組むことが、臨床医としての力になる」という挨拶がありました。

もとに、学生諸君が医師国家試験合格・初期研修を経て、後期研修の一環として弘前大学大学院医学研究科に進学し、一度は研究に取り組む、英文原著論文を「弘前から世界に」発信して下さることを期待しています。多用な日常業務にもかかわらず、学生を受け入れ指導していただいた教員ならびに審査を担当して下さいました教員の方々に、心より御礼申し上げます。本年も研究室研修は三年次後期に開催されますので、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

私は今回の研究室研修で感染生体防御学講座に配属となりました。中根明夫教授として浅野クリスナ先生をはじめとする同講座の諸先生方にはとてもお世話になりました。沢山のご迷惑もおかけしたと思います。最後までご指導いただいたことに感謝申し上げます。私たちの研究テーマは「表皮ケラティノサイト特異的オートファジー欠損マウスの作製」でした。東京工業大学大隈良典教授のノーベル賞受賞により話題となつているオートファジー。発表にて十分な説明を行ったので詳細は割愛させていただきますが、ホットな題材を取り扱うことができるということで熱いものが湧き上がってきたことを覚えております。いざ、実際に研修が始まると私が想像していたよりも、大きな成果の裏には地道な努力のみがあるのだということ

を思い知りました。特段大雑把な人間である自分は、ピペットマンを使った操作やPCRの繊細な作業に苦しみられました。それでも、仮説に基づき思い描いた結果が得られたときには金を掘り当てたような感覚を覚えました。このような喜びがあるからこそ研究というものは面白く、進めば進むほどに探究心を掻き立てるのだなと身をもって経験できました。まだすべての座学を終えておらず将来の姿を鮮明にイメージすることはできませんが、ずっと臨床家として医師の一生を終えるつもりでいた自分にとって新たな将来像を描くための良い刺激となりました。

また、私は英語が好きで、英語で説明書を読んだり専門用語を覚えていったり、英語でのプレゼンテーションはとても楽しかったです。何事も努力には必ず

優秀発表賞を受賞して

医学部医学科三年 田 村 汐 織

この度は研究室研修の発表会において優秀発表賞を受賞することができ、大変嬉しく思います。ご指導いただきました内田知顕先生、水上浩哉教授をはじめ分子病態病理学講座の先生方、発表会の準備、運営をしていただいた今泉教授に深く感謝申し上げます。

私は分子病態病理学講座に配属され、「膵導管癌の血管構造に対する糖尿病の影響」というテーマのもと研究をやらせていただきました。糖尿病を合併した膵癌の患者さんの予後が悪いことがわかっております。その理由のひとつに糖尿病による膵癌の化学放射線療法に対する抵抗性の増加があります。一般に、糖尿病は

大血管障害や細小血管障害を引き起こします。これらのことから、糖尿病による血管構造の変化により抗がん剤が膵腫瘍に届きにくくなり予後が悪くなっているのではないかとという仮説をたて、膵癌内の動脈硬化の程度や微小血管の密度について病理学的に解析を行いました。

今度研究というものをやったことがなかったの辛さが伴いますが、そこで楽しいという気持ちを忘れずに、つまり、初心を忘れないで取り組んでいくことが肝心であると再確認できました。

今回はこのような賞をいただけて光栄です。これに慢心せず努力を続けていく所存です。ありがとうございました。

優秀発表賞を受賞して

医学部医学科三年 山口 健

この度は、研究室研修優秀発表賞をいただき大変光栄に思います。ご指導いただきました、伊東健教授はじめ、分子生体防御学講座の先生方に心より感謝申し上げます。今回私は「非ヘム誘導剤がビルビン産生に与える影響」をテーマに研究を行いました。生体内での酸化防御機構において、HO（Heme Oxygenase）は酸化ストレスにより発生が誘導される酵素として

その役割を担っています。HOはヘムをCO、Fe²⁺、ビリルジンへと変換する酵素であり、ビリルジンはビルビンへと変換されます。ヘム代謝により生成されたビルビンは抗酸化作用を持つことが知られています。こうしたHOの作用は網内系、脾臓にて多く報告されているものの、末梢組織でのビルビンの生成に関する報告はあまりありませんでした。そ

こで我々は正常細胞であるMEF（Murine embryonic fibroblasts）を用い、ヘム代謝を調べるとともに酸化ストレス下でのHOの機能解析を行いました。実験の結果、MEFにおいて恒常的なビルビン生成を確認するとともに、非ヘム誘導剤であるスルフォファン（Sulfinpyrazone）の導入によりビルビンの生成量は増加しました。この結果から、MEFでは恒常的なヘム代謝が行われており、ビルビン産生においてスルフォファン（Sulfinpyrazone）の影響はあ

弘前大学 後援会のご案内

会長 石戸谷 忻 一

弘前大学後援会では、学生の学業、課外活動への助成、学生の進路指導に必要な助成等学生生活の多岐にわたる分野の助成を行っております。つきましては、何卒本会の趣旨に御賛同頂きまして、各位の格別の御高配、御支援を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

なお、入会方法等の詳細については、弘前大学総務部 総務広報課（Tel：0172-39-3012、E-mail：jm3012@hirosaki-u.ac.jp）までご連絡いただくか、弘前大学後援会ホームページ（<http://www.hirosaki-u.ac.jp/kouen/index.html>）をご覧ください。

若手教員・医師だより

医師としてそして親として

附属病院 眼科 講師 目時 友美

私は、平成十年三月に弘前大学医学部を卒業し、その当時は現在のような研修制度がなかったため、同年四月から弘前大学眼科学教室に所属し眼科医として働いております。

教室長の仕事は事務的かつ裏方的な仕事ではあります。が、育児もあり時間的に制限もある私が少しでも役に立つことができるのであればと思いつつやっています。その仕事のひとつである各関連病院や小中学校眼科健診への医師派遣を決定す

るのは、数年来続く医師不足が大きく関与し、そこに多くの時間が費やされ悩ましい限りです。

私には大学生の娘と中学生の息子、そして保育園児の息子の三人の子供がいます。それぞれ年代が違うためやることもそれぞれ異なりますが、大きくなれば小さい頃にはなかった親としての悩みが出てきます。育児だけが子育てではありません。医師としてそして親としてまだまだ日々勉強です。

若手教員・医師だより

小学一年生の壁

附属病院 内分泌内科・糖尿病代謝内科 助教 佐藤 江里

小学一年生の壁、という言葉があります。去年娘が小学生一年生になり、私もその壁にぶち当たりました。

壁は今もなお存在しており、小学生の世話は本当に大変ですが、周囲の協力もあり何とかやり過ごしています。これからその壁に当たるであろう方もいらっしゃると思いますので、参考までに私の経験をお伝えします。

我が家には三歳と七歳の娘がいますが、二人とも乳児期からひろだ保育園にお世話になりました。保育園の先生はみな優しく温かく、給食は手作りでメニューも豊富、急な夕食にも対応してくれます。箸の持ち方、トイレトレーニングもすべて園でやって頂き、育児の悩みや愚痴も聞いてもらいました。毎日楽しく登園し、母子ともに保

留学だより

皮膚科学講座

助教 六戸 大樹

平成二十八年四月から University of Washington, Division of Dermatology に研究留学をしております。

大学院時代の私の研究テーマは皮膚悪性腫瘍であり、大学院卒業後も皮膚腫瘍の研究に興味を持っています。しかし、日本国内では

経験を重ねてたくましく成長してくれています。

また、我が家の生活において、七年の付き合いになるシッターさんであるはーちゃんといっただんの存在も欠かせません。当初は子供が病気の時などをお願いすることを想定していましたが、現在では本当の家族のような存在になっており、娘の運動会や学芸会などと一緒に出かけ、ときにはお酒を酌み交わしたりしています。

最後になりますが、講座をはじめとした病院関係者のご理解にこの場を借りて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。なお、引き続きご理解者かつまあまあの協力者である夫にもそれを申し添えておきます。

残念ながら皮膚癌の基礎研究はそれほど盛んではありません。そこで、澤村大輔教授、中野創准教授からの応援もいただき、皮膚癌に焦点を当てた研究をしている現所属先とコンタクトを取り、受け入れていただけることになりました。

University of Washington は、米国北西部ワシントン州のシアトルにあるアメリカでも規模の大きな大学です。皮膚科では主任教授の Paul Nghiem 先生が全体の研究、臨床を率いており、その中でも私が所属している Kawasumi Lab では、紫外線による皮膚発癌をメインテーマに研究を行っています。直属

のボスである川澄正興先生は、多種多様な分野の研究者との共同研究を得意とする先生であり、研究のみならず後輩の指導にも非常に熱心です。

昨年、皮膚科部門の中にご自身のラボを立ち上げられたばかりであり、新ラボのセットアップや研究費申請のお手伝いをする機会にも恵まれました。

現在携わっている研究についても簡単に



University of Washington, Division of Dermatology のスタッフと。前列左端が川澄正興先生、前列左から 3 番目が Paul Nghiem 先生、私は前列右端。

ご紹介いたします。多くの皮膚癌は露光部に発生しますが、これは、紫外線によって癌関連遺伝子に変異が組み込まれ、発癌が誘発されるためです。一方、多くの大規模疫学研究でカフェインの摂取が皮膚発癌の発症リスクを抑えることが報告されており、実際、所属先でのマウス実験でも、皮膚にカフェインを塗布すると紫外線発癌が有意に抑制されるということが証明されています。カフェインには ATR という酵素を阻害する作用があり、これが紫外線発癌の抑制に関連していることが、この数年で証明されてきました。現在、紫外線発

癌予防機序のさらなる解明を目指して研究を進めています。

渡米前からの大きな不安要素は英語でした。研究室では当然英語を使わなければならないわけですが、自分でも驚くほどに上達していません。英会話が遅々として上達せず、特に電話が鳴るといまだにドキドキします。初期研修医時代に、救急部からの当直医呼び出し電話に出るときのストレスを思い出します(笑)。

現地学校に通う長男、長女も最初の数ヶ月は英語に苦労しましたが、やはり子供の方が上達は早いです。最近娘が発する英語が聞き取れないことがあり、聞き

返して笑われています。それでもなんとかこちらの生活にも慣れてきて、大きなトラブルもなく家族とともに楽しく過ごしております。シアトルでの生活を少しみつつも、限られた時間でできるだけ多くのことを学んで帰りたいと思っています。

コラム 医学部 こぼれ話

医師は英語の論文を読める程度の英語の習得は必須です。さらに長じて、海外へ留学し研究、臨床をしたと考える人もいるでしょう。しかしながら、現在日本人の海外留学数は激減しております。米国への留学生の数は二〇〇〇年くらいまでは国別第一位で、年間四万五千人以上でしたが、二〇一五年では国別九位、一万九千人程度と半分以下です。私の学生時は(約二十年前)、学生の海外旅行そのものが珍しく、海外は全く想像もできない世界でした。それに対し、昨今、多くの学生が長期休暇中に海外旅行にいつており、海外への距離が縮まっているはず。にもか

わらず、留学生が減少しているのは全く腑に落ちないことです。わが医学部の学生も海外志向が強い学生もいるのですが、興味がなく「青森で一生活ごす」ことを考えている学生も多いようです。本学医学部では、学生の皆さんのために人数制限はありますが、米軍三沢基地、いくつか海外の大学での短期研修プログラムを用意しております。また、各講座の先生にお願いすれば研修機会を得ることができるとは思いません。長い人生、一度は海外で研究臨床を行い、その知識、経験で弘前大学を引っ張る医師として活躍してほしいと思います(M)。

関連病院勤務報告

地域の病院で研修して

あえて青森県を選びませんか

つがる総合病院 産婦人科 小林 麻美

まず自己紹介を致します。
年齢：三十一歳、性別：女、出身地：長野県、その他特記すべき事項：現在独身。以上、よろしくお願ひします。

でした。そんな私ではありましたが、あれから十三年の年月が経過し、今では青森県に首までどっぷりと浸かったアラサー産婦人科医へと変貌しました。専門医、博士号を取得した後、現在はつがる総合病院で勤務しており、周産期や腫瘍に限らず多くの患者さん向き合っています。日々を過ごして

ず、心細い思いでいっぱい

今では青森が自分の居場所



所となつていますが、研修病院の選択の際は地元に戻るかどうかで大変悩みました。これは人生の分岐点とも言える大きな選択であり、同じように悩まれている学生さんは大勢いらっしゃると思います。私は青森を選択して良かったと実感していますので、少しでも参考になればと思いお話しします。

研修先について、大学四年生頃までは地元に戻るものだと漠然と思っていたが、五年生から具体的に考えるようになりました。県内も地元も様々と見学し、どの病院もそれぞれ良く、研修内容では決断することができませんでした。そこで、自分が医師として成長する場合にどのような環境が適しているのかを考え、人とのつながりと大学を重視することにしました。その中で、青森は学生の頃からお世話になった先生方や仲間がいること、母校であるため大学院への入学や研究生活がスムーズであることなど利点が多くあり、青森で研修する事を決定しました。

実際に青森に残って研修をし（大学Cプログラムを選択しました）、周りの方々に支えられて多くの事を学び、実践することができ、満足いく研修生活を送ることが出来ました。さらに研修終了後は産婦人科教室に入室し、臨床を積みながら大学院の研究ができ、博士号と同時に専門医の取得もできました。このようにスムーズに二つを取得できたのは教室の先生方の支えなくして出来ないことであり、母校の有りがたさを強く感じました。

青森市民病院で研修して

内分泌代謝内科学講座

大学院一年生 鷲田 啓資

私は平成二十七年に弘前大学を卒業し、青森市民病院で初期研修を行いました。青森市民病院は青森市のみならず周辺地域も含んだ広い圏域をカバーする総合病院です。基本的診療能力を習得できるような研修プログラムが構成されたが、五年生から具体的に考えるようになりました。県内も地元も様々と見学し、どの病院もそれぞれ良く、研修内容では決断することができませんでした。そこで、自分が医師として成長する場合にどのような環境が適しているのかを考え、人とのつながりと大学を重視することにしました。その中で、青森は学生の頃からお世話になった先生方や仲間がいること、母校であるため大学院への入学や研究生活がスムーズであることなど利点が多くあり、青森で研修する事を決定しました。

今はまだ周りの方々に支えて頂くばかりの私ですが、将来的には支えられるだけでなく、自分自身も青森を選択してくれた皆さんに支えに少しでもなれば、と思っています。研修先で悩んでいる学生さん、ここはあえて母校のある青森で一緒に働いてみませんか？きっと青森を選んで良かったと感じるはずです。

青森 あずまし 温泉紀行

13

鬼島 宏
(病理生命科学講座・教授)

青荷温泉
喜龍温泉
鶴田大沢温泉
梅田温泉
音次郎温泉



前号で辿った黒石・山形街道から青荷へと足を延ばしたのちは、再び浅瀬石川沿いに羽州街道まで下り、今回はその先に連なる下之切通り近郊を訪れます。藤崎は、下之切通りに加えて、岩木川の支流・平川と浅瀬石川が合流する交通の要所として栄えたようで、現在も藤崎舟場角のバス停名に当時の名残があります。十三湖の繁栄を基盤に勢力を誇った安東氏

で、湯につかると肌すべすべ感を実感できます。

鶴田大沢温泉（つがる富士見荘：第五十三湯：鶴田町廻堰大沢：二十一時迄：十六時迄は宿泊者用大浴場も入浴可）は、薄茶色透明のナトリウム・塩化物泉です。宿泊者用大浴場では、窓から広がる鶴の舞橋・津軽富士見湖を借景とした微塩化物泉で心も癒されます（写真左手：大浴場）。

行無常を感じます。

青荷温泉（第五十一湯：黒石市沖浦字青荷：十五時迄）は、ランブの宿として有名な秘湯です。板留（前号参照）

出身の歌人・丹羽洋岳の歌を想いつつ本館内湯に浸れば、開湯に尽力した彼の息吹が伝わってくるようです（黒石市ホームページ：黒石人物伝）。

喜龍温泉（玉の湯：第五十二湯：藤崎町豊田：二十二時迄）は、国道三三九号線バイパス起点付近にあります。美人の湯の看板通り、単純温泉ですが熱めで薄黄色透明の湯

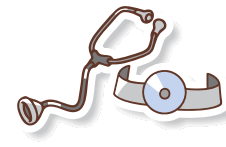


梅田温泉（第五十四湯：五所川原市梅田：二十一時迄）は、広田温泉（医学部ウォーカー第七十七号青森あずまし温泉紀行）の近くなから一層地元密着感のある湯です。薄黄褐色調のナトリウム・塩化物泉は、独特の心地よさがあります。

音次郎温泉（第五十五湯：五所川原市石岡：二十二時迄）は、「身体も心も暖まるイー温泉」と看板に記された通りの個性的な湯です。黄色透明で塩味のナトリウム・塩化物泉は、まさに保温効果抜群です。

海外編：海外にもスパと称して多数の温泉が存在しますが、大きな入浴施設として整備されて水着をつけて入浴するのが一般的のようです。一方、古代ローマの公衆浴場（ローマ風呂）は公衆浴場に位置付けられ、日本の温泉との共通性が伺えます。海外で最初に挙げられるべくは田中（県外編第十一湯：英国パリス）であり、地名自体が温泉に由来しています。ローマ風呂（写真）を含むパリス市街は、世界遺産にも登録されています。

学生だより



一年間を振り返って

二年生を終えて

医学部医学科三年 座主 真衣佳

二年生は本格的に医学の勉強が始まり、個人的には非常に苦勞した一年間となりました。日々の授業に加えて試験や実習もあり、医師という夢に近づく嬉しさとともに、精神的にも体力的にも辛いと感じることが多々ありました。そんな一年間の中で私は多くのことを学びました。まず、理解し暗記することの大切さです。例えば生理学ではホルモンについて、どこからどんなホルモンが分泌されて、そのホルモンの量をどのようにメカニズムで私たちの体は調節しているのかということを学びました。これを理解しただけでは不十分で、覚えなければ意味がありません。理解と暗記の両方ができていなければ試験に合格できないのはもちろんのこと、実際に知識として身につけていないことになるのだと思います。また、疑問が生じ調べても理解できない場合は、質問することが重要であると感じました。大学生に対するイメージとして、高校までとは違い先生と生徒の距離は遠いものだと思うかもしれませんが、実際に

気づいたこと

医学部医学科三年 中野真幸

子曰く、学びて時に之を習う、亦た説ばしからずや。これは論語の中の一節である。なにかを学び、おりにふれておさらいして身につけるといえるのはよろこばしいことではないかという意味。これが一年間を振り返って気づいたことである。まず、二年生では専門科目に入り圧倒的に暗記量が増えた。それによって勉強する時間が増え、自ずと自分に分かった勉強方法がわかった。勉強し始めるまでのやる気を出すのが大変な人は私に限ったことではないと思う。その改善策として、このスライドだけ覚えて、このスライドだけ覚えて、

秩父宮杯・秩父宮妃杯 第90回全日本学生スキー選手権大会（インカレ）を終えて

第90回全日本学生スキー選手権大会報告

平成28年度医学科卒 宇佐美 真太郎



先日大鰐スキー場にて開催されました全日本学生スキー選手権大会（以下、インカレ）について原稿依頼がありましたので、卒業した身ではありますが報告させていただきます。男子は大学別総合順位により一部から三部までで構成され、弘前大学は一昨年度三部で総合優勝となり二部昇格を果たしました。昨年度はそこで迎えた地元大鰐でのインカレということで、名譽にかけて意地でも二部に残留しなければなりません。

低限獲得し（※進、大回転と回転競技でより上位を目指す予定でしたが、悪天候のためスーパード回転はキャンセル。翌日行われた大回転競技ではかろうじて十三位に入り、大学別ポイントを獲得して二部残留へ首の皮一枚繋げました。最終日の回転競技は得意種目で、かつ直前の練習でも調子が上向いていたこともあり上位入賞を狙っていましたが、なんと三位入賞を果たすことができませんでした。スキー人生の中で中学高校と全国大会には駒を進めていたものの、最高順位が高校総体での十五位と入賞まであと一歩届かない経験をしてきた私にとって、インカレ二部でのメダル獲得はこれ以上ない喜びでした。

第90回全日本学生スキー選手権大会（インカレ）を終えて

医学部医学科六年 高橋 茜

平成二十九年二月二十日（二十四日）にかけて大鰐温泉スキー場にて全日本学生スキー選手権大会が開催されました。弘前大学スキー部にとって十年ぶりの地元開催となった本大会において、大学対抗女子二部で念願の初優勝をすることができました。

昨年は優勝争いしたものの、人員不足で最終競技のクロスカントリリーに出場できず達成できませんでしたが、今年は「地元大鰐で優勝」を目標に、医学部スキー部は体育会スキー部と共にオフシーズンから地道に取り組んできました。自身の五年間の部活動を通して、私達にとって一



番厳しいと感じたことは、限られた練習環境の中で他大学の体育会スキー部と戦い続けることでした。弘大スキー部は体育会、医学共にスキー競技経験者は少なく、部全体の實力を維持していくためには初心者から育てていく必要があります。雪上練習は十二月中旬から始まり、一月の講義がある日はナイター練習、一月末から二月はテストや実習の合間に練習し大会に出場します。弘前はスキー場に近い環境にありますが、練習量もレース経験も他大学と比べればずっと少ないのが正直な所です。その中で實力を伸ばし、大会で十分に力を発揮するには、オフシーズンから一分一秒を無駄にしないという個々人の高い意識が重要だと思つてやってきました。一昨年から、地元チームの練習や大会に声をかけて頂けるようになり活動の幅も広がってきました。昨年インカレの学校対抗男子三部優勝、今年の女子二部優勝は、現役部員だけで取れたものではなく弘大スキー部の長い歴史あつての結果だと思っています。

個人としては今回が最後のインカレでした。一年の時から「インカレの表彰台」を目標にやってきましたが、個人種目では六位が最高順位となりました。目標を達成できなかった悔しさはありますが、五年間目指すものがあり、多くの支えの中で挑戦し続けられたことに感謝の気持ちしかありません。これから大学関係者だけでなく弘前や大鰐地域の方々など広くから応援して頂けるスキー部でありたいと思っています。

脳血管病態学講座

実験の過程で得られた
新たな仮説に取り組む

脳血管病態学講座は、昭和四十二年に脳卒中研究施設病態生理部門として開設され（写真1）、「脳卒中の基礎研究」というテーマでスタートしました。脳血管障害の重要な病態に「動脈硬化」がありますが、近年、「動脈硬化」は「慢性炎症」の一つの表現型と考えられています。「慢性炎症」には、免疫応答において異物を認識する「パターン認識受容体」や「自然免疫系」が重要な役割を果たします。また、「アルツハイマー病」や「癌」でも「慢性炎症」が重要なことが知られてきました。

このような医学研究の進展にともない、私たちの研究も「脳血管内皮細胞の機能」「自然免疫」「認知症」「抗酸化物質」「抗ウイルス応答」「オートファジー」「ミトコンドリア」「弁の石灰化」「胆道免疫」「癌の増殖・細胞死」「糸球体腎炎」「気道免疫」「歯周病」「子宮の粘膜免疫」「ピロリ菌と胃の免疫」などの分野へと広く展開しています。当講座の前任教授である佐藤敬先

脳血管病態学講座 教授 今泉忠淳

生（現弘前大学学長）は、「研究・実験の過程で得られた新たな問題意識・仮説に、自由に組み込む」という方針でしたが、その教えを引き継いでいます。

平成二十九年四月

現在の講座のメンバーは、今泉忠淳（教授）、吉田秀見（講師）、松宮朋穂（助教）、瀬谷和彦（助教）、川口章吾（助教・消化器血液内科学講座）、王亮（大学院生・脳神経外科学講座）、島田拓（大学院生・消化器外科学講座）、吉田達哉（大学院生・消化器外科学講座）、柴祐子（客員研究員）、早狩亮（客員研究員）、棟方久美子（事務補佐員）です。私たち

たちは、バックグラウンドも様々なヘテロな集団であり、教員や大学院生の研究テーマは、一人一人のバックグラウンドや興味に応じて、フレキシブルに設定しています。

大学院生や共同研究は、専攻する分野やテーマを問



写真1. 開設時の看板



写真3. 実験室



写真2. 培養室

ホームページ
<http://timaizum.wixsite.com/vbversion2>
ブログ
<http://vascularbiology.blog.fc2.com/>

歯科口腔外科学講座

歯科口腔外科学講座 教授 小林恒

当教室は昭和五十四年四月に医学部臨床系講座の十七番目に開設されました。以後、三十八年経過し、初代 鈴木貢名誉教授、二代 木村博人名誉教授、平成二十七年十月からは三代目として私が担当しております。医学研究科・医学科・附属病院における教育・臨床・研究に加え、多方面での社会活動を教室員が一丸となって努力しているところです。

教育

医学部医学科四年生の歯科口腔外科学を担当し年間十五回程度の講義と、一週五日間の臨床実習を担当しております。講義と臨床実習に際し、当科独自の講義・臨床実習ノートを作成し、医師として最低限必要

な顎口腔の機能と疾病の診断と治療を効率的に理解が深められるように工夫しています。保健学科や学外の看護学校においても歯科口腔外科学を教育する機会を得ております。

研究

研究活動は顎口腔領域に発生する疾患の病態の解明と新規診断・治療法の開発を目的としています。口腔癌の研究では腫瘍間質に着目し、間質モデルを用いた癌浸潤・転移の研究を分子生物学的手法を用いて行っています。また、骨の研究では顎骨再生・吸収機序を骨膜の点からアプローチするため、骨膜を培養し、骨芽細胞との関連を検索しています。当科は岩木健康増進プロジェクトに参加しており、口腔と全身の健康との関係に関するコホート研究にも力を入れています。いずれも、臨床的な診断・治療につながるよう研究活動を継続しております。

臨床

歯科口腔外科では歯および歯周疾患に加え、口腔粘膜、上下顎骨、顎関節などに発生する様々な病気を取り扱っています。代表的な疾患は「口腔がん」、「下顎前突症」、「顎骨内良性腫瘍」、「顎骨骨折」、「顎関節症」などが挙げられます。当科は県内唯一の口腔外科専門施設のため、県内全域

と秋田県北地方から患者紹介があります。また、当科外来では院内の口腔ケアを担当しており、院内各科連携の下「周術期口腔機能管理」を行っております。特に当科での特徴的な治療は、口腔がんに対して「切らずに治す」ことをスローガンに進行口腔がん症例に対しては放射線科と共同で行っている超選択的動注化学放射線治療であり、手術を超える治療成績を得ています。

社会活動など

県内外の教室関連施設に

常勤・非常勤 歯科医師を紹介し、地域医療の向上に貢献してきました。平成十八年四月からは「歯科医師臨床研修制度」が始まり、卒後臨床研修センターに併設する形で「歯科医師卒後臨床研修室」が開設されています。これまでに三十七名の歯科研修医が研修修了し、現在是一名在籍しております。

弘前市周辺のアレルギーの原因になる植物

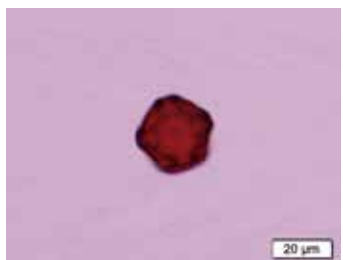
空とぶ五稜郭？ ハンノキ花粉

耳鼻咽喉科学講座 教授 松原 篤

われわれの講座では、毎年2月になると研究棟の屋上に花粉を集める器具をおいて、空中を飛散する花粉調査を開始しています。スギ花粉は3月上旬あたりから飛び始めますが、その少し前に、まるで花粉症シーズンを告げる前ぶれのように、スギ花粉より少し小さめで五角形から四角形の花粉が観測され始めます。この特徴的な形をした花粉はハンノキの花粉です。まるでタワーから見た函館の五稜郭みたいに見えませんか？

ハンノキはあまり有名ではないかもしれませんが、ブナ目カバノキ科ハンノキ属の広葉樹で、前にも紹介したシラカバ（ブナ目カバノキ科カバノキ属）の近縁種になります。ちなみにシラカバは別名で、シラカンバが

正しい名称になるようです。ハンノキ花粉症でも、以前にシラカバ花粉症で紹介した口腔アレルギー症候群、つまり果物や野菜を食べ後に口の中が痒くなったり腫れたりする厄介な病気を合併することがあります。リンゴやモモのバラ科の果物、メロンやスイカのウリ科の果物で発症することは有名ですが、豆乳で口腔アレルギー症候群を発症する場合もあるようです。意外と盲点かもしれませんね。



部活動紹介

剣道部

医学部医学科三年 芦田 雄汰朗



弘前大学医学部剣道部は男子五名、女子二名の計七名で活動しています。人数こそ少ないものの、お互い協力して稽古に励んでいきます。医学部剣道部が主体で行う医学練の他に全学の剣道部が主体の練習に参加することができ、他学部と交流が持てることも医学部剣道部の特徴です。大学での剣道の試合で私が驚いたのは団体戦が七人制であったことです。高校

す。さて、剣道は防具をつけて試合をするわけですが、チーム毎に防具、道着を統一して試合に臨むことがあります。弘前大学剣道部では面を付ける前に頭に巻く手拭いを揃えています。手拭いには色や書いてある文字によって様々な種類がありますが、弘前大学で統一された文字は「磨吹毛」です。この言葉は吹毛を磨く

この言葉を胸に日々の練習に取り組んでいます。少し堅苦しい話を書いてしまいましたが、医学部剣道部では真面目に練習に取り組んでいる反面、様々なイベントがあります。北医体や東医体といった大会に参加するのはもちろん、スポーツ大会やバーベキューなど楽しい行事も多くあります。これらのイベントも全学と合同で行うことが多いので、色々な人と交流を深めることができます。最後に、剣道で学ぶこ

Medical Cool Quartet

医学部医学科四年 布村 恭仁

私たち Medical Cool Quartet (MCQ) は軽音サークルとして、毎週土曜日の部会、また月一回程度のライブを行っています。元々は医学科のサークルとして発足しましたが、今では医学科に加えて他の学部学科の部員も加えて、男子四十四名、女子二十二名、計六十六名で楽しく活動しています。MCQの活動は比較的



とができます。時間的余裕もありますので、他のサークルと兼部したりバイトに勤しんだりする部員もたくさんいます。また大学から楽器を始めたばかりの部員もたくさんいますが、部員同士で教えあったり、楽器ごとに講習会をするなどバンドを越えて日々皆で一緒に練習をしています。私たち MCQ は毎月弘前市内のライブハウス等をお借りしてライブをしています。サークルの中心だけでなく、OBの先生方先輩方と一緒にライブを行う「OBライブ」、弘前大学の他の軽音サークルと合同でライブを開催する「Music Cubel」、他サークルとの「対バン」、「新人生ライブ」等沢山のライブを行っています。その他のイベントとしては昨年度はOBの先生方にお話をもらい、弘前大学医学科卒業四十周年の同期会で演奏する機会をいただきました。また昨年度から、北日本医学部軽音サークルが合同で開催する「北医音」に参加させてもらうことになりました。昨年は仙台での開催に参加しましたが、今年も弘前で開催することになりました。部員一同今年のイベントに向けて楽しみに準備しているところです。このようにMCQではサークルの中心だけでなく、色んな人とライブを通じて一緒に音楽を楽しむことで色んな人との繋がりを持っています。



弘前大学医学部空手道部には現在、医学科の学生十八名が所属しています。かつては部員数が減ってしまいましたが、OBや顧問の先生方に良い報告ができるようにしたいです。さて、現在空手の世界は変化の時期にあります。オリンピック正式種目への採用を目指すなかで起きた海外勢の台頭やルールの変更は今までの組手を大きく変えました。模範的であるとされてきた構え、突き・蹴りの方法がここ数年で非合理的であると否定され、新しい組手のスタイルが確立されつつあります。そしてオリンピックの正式種目への採用が決まり、この変化はさらに加速し続けています。そして大事なことは、この変化は何も世界のトッププレイヤーにだけあってはまる話ではないということです。この変化の波は東医体にも当然押し寄せ、私達にも変化への対応が求め

空手道部

医学部医学科四年 井上 喬二郎

ける環境を生み出しました。しかし、こうした現象の影響か、東医体は近年ますます盛り上がりを見せています。昨年行われた北医体でも弘前大、岩手医科大、秋田大、新潟大、東北大が参加しましたが、どの大学の部活も活気づいてきているのが見てとれました。これからは他大学とお互いを磨き合いながら、この変化の時代に乗り遅れないよう努力していきたいと思っています。



人事異動 (H29.3.1～H29.5.31)

●医学研究科 ●附属病院

【定年退職】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
H29.3.31	感染生体防御学講座	教授	中根 明夫	生体高分子健康科学講座 特任教授
H29.3.31	社会医学講座、地域健康増進学講座、オーラルヘルスケア学講座、アクティブライフプロモーション学研究講座、先制栄養医学講座 教授	教授	中路 重之	社会医学講座、地域健康増進学講座、オーラルヘルスケア学講座、アクティブライフプロモーション学研究講座、先制栄養医学講座 特任教授
H29.3.31	薬剤学講座	教授	早狩 誠	弘前医療福祉大学
H29.3.31	生体構造医科学講座	准教授	外崎 敬和	弘前医療福祉大学短期大学部

【昇任】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
H29.3.1	循環器腎臓内科学講座	教授	富田 泰史	循環器腎臓内科学講座 准教授
H29.4.1	感染生体防御学講座	准教授	浅野 クリスナ	感染生体防御学講座 講師
H29.4.1	神経解剖・細胞組織学講座	講師	浅野 義哉	神経解剖・細胞組織学講座 助教
H29.4.1	生体構造医科学講座	講師	渡邊 誠二	生体構造医科学講座 助教
H29.4.1	高血圧・脳卒中内科学講座	講師	横田 貴志	循環器内科・腎臓内科 助教
H29.4.1	医学医療情報学講座	助教	田中 里奈	医学医療情報学講座 助手
H29.4.1	地域医療学講座	助教	高橋 静	眼科学講座 助手

【採用】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
H29.3.1	麻酔科学講座	助教	二階堂 義和	大学院医学研究科 テニユアトラック 助教
H29.4.1	ゲノム生化学講座	教授	藤井 穂高	大阪大学微生物病研究所
H29.4.1	社会医学講座、地域健康増進学講座、オーラルヘルスケア学講座、アクティブライフプロモーション学研究講座、先制栄養医学講座 特任教授	特任教授	中路 重之	社会医学講座、地域健康増進学講座、オーラルヘルスケア学講座、アクティブライフプロモーション学研究講座、先制栄養医学講座 教授
H29.4.1	生体高分子健康科学講座	特任教授	中根 明夫	感染生体防御学講座 教授
H29.4.1	ゲノム生化学講座	准教授	藤田 敏次	大阪大学微生物病研究所
H29.4.1	病理生命科学講座	助教	吉澤 忠司	弘前市立病院
H29.4.1	神経精神医学講座	助教	小田桐 元	弘前愛成会病院
H29.4.1	耳鼻咽喉科学講座	助教	西澤 尚徳	青森県立中央病院
H29.4.1	脳神経内科学講座	助教	廣畑 美枝	独立行政法人国立病院機構花巻病院
H29.4.1	分子生体防御学講座	助教	葛西 秋宅	東北大学大学院生命科学研究科
H29.4.1	地域医療学講座	助教	杉山 綾	内分泌内科、糖尿病代謝内科、感染症科 医員
H29.4.1	地域総合診療医学推進学講座	助教	羽賀 敏博	三沢市立三沢病院
H29.4.1	子どものこころの発達研究センター	特任助教	三上 珠希	国立病院機構弘前病院
H29.4.1	眼科学講座	助手	田名部 玲子	大館市立総合病院
H29.4.1	総合地域医療推進学講座	助手	明本 由衣	消化器内科、血液内科、膠原病内科 医員
H29.4.1	地域救急医療学講座	助手	太田 聖也	医療法人誠仁会 尾野病院
H29.4.1	地域救急医療学講座	助手	小川 哲也	黒石市国民健康保険 黒石病院
H29.4.1	先制栄養医学講座	助手	小笠原 悠	弘前大学大学院理工学研究科 大学院生

【配置換】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
H29.4.1	循環器腎臓内科学講座	助教	遠藤 知秀	高度救命救急センター 助教
H29.4.1	整形外科科学講座	助教	木村 由佳	整形外科 助教
H29.4.1	麻酔科学講座	助教	工藤 倫之	集中治療部 助教
H29.4.1	形成外科学講座	助教	齋藤 百合子	形成外科 助教
H29.4.1	脳血管病態学講座	助教	瀬谷 和彦	病態薬理学講座 助教
H29.4.1	救急・災害医学講座	助手	太田 大地	集中治療部 助手
H29.4.1	脳神経生理学講座	助手	小湊 佳輝	病態薬理学講座 助手

【辞職】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
H29.3.31	ゲノム生化学講座	准教授	山田 俊幸	日本薬科大学
H29.3.31	社会医学講座	准教授	高橋 一平	医療法人社団 リラ溝口病院
H29.3.31	病理生命科学講座	助教	諸橋 聡子	弘前市立病院
H29.3.31	整形外科科学講座	助教	奈良岡 琢哉	黒石市国民健康保険黒石病院
H29.3.31	脳神経生理学講座	助教	古賀 浩平	兵庫医科大学
H29.3.31	地域医療学講座	助教	綿貫 裕	高知大学
H29.3.31	高血圧・脳卒中内科学講座	助教	中村 雅将	医療法人埼玉会 埼玉草加病院
H29.3.31	地域救急医療学講座	助教	黒瀬 理恵	国立病院機構弘前病院
H29.3.31	循環器腎臓内科学講座	助手	佐々木 憲一	青森県立中央病院
H29.3.31	神経精神医学講座	助手	柞木田 なつみ	附属病院 医員
H29.3.31	脳神経内科学講座	助手	成田 早希子	脳神経内科学講座 技術補佐員
H29.3.31	地域医療学講座	助手	江目 孝幸	附属病院 医員
H29.3.31	地域総合診療医学推進学講座	助手	五十嵐 剛	青森労災病院
H29.3.31	地域救急医療学講座	助手	新戸部 陽士郎	留学（アメリカ合衆国）
H29.3.31	総合地域医療推進学講座	助手	宮澤 邦昭	つがる総合病院

臨床教授・臨床准教授称号付与者（平成29年4月1日現在）

称号名	氏 名	現 職 名	称号付与日	称号付与期間	推薦講座
臨床准教授	谷口 哲	弘前中央病院 心臓血管外科医師	平成29年 4 月 1 日	平成29年 4 月 1 日 ～平成32年 3 月31日	胸部心臓血管 外科学
臨床准教授	神 寛之	青森市民病院 外科医師	平成29年 4 月 1 日	平成29年 4 月 1 日 ～平成32年 3 月31日	消化器外科学
臨床准教授	久保 寛仁	弘前市立病院 外科医長	平成29年 4 月 1 日	平成29年 4 月 1 日 ～平成32年 3 月31日	消化器外科学
臨床准教授	富永 健	青森市民病院 耳鼻いんこう科部長	平成29年 4 月 1 日	平成29年 4 月 1 日 ～平成32年 3 月31日	耳鼻咽喉科学

【昇任】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
H29.4.1	産科婦人科	講師	福原 理恵	産科婦人科 助教
H29.4.1	脳神経外科	講師	奈良岡 征都	脳神経外科 助教
H29.4.1	形成外科	講師	三上 誠	形成外科学講座 助教
H29.4.1	リハビリテーション科	講師	三浦 和知	リハビリテーション科 助教
H29.4.1	泌尿器科	助教	及川 真亮	泌尿器科 助手
H29.4.1	泌尿器科	助教	萩原 和久	集中治療部 助手
H29.4.1	眼科	助教	安達 功武	眼科 助手
H29.4.1	麻酔科	助教	野口 智子	麻酔科 助手
H29.4.1	集中治療部	助教	成田 拓磨	泌尿器科 助手

【採用】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前所属・異動先等
H29.4.1	小児外科	准教授	平林 健	東海大学
H29.4.1	消化器内科、血液内科、膠原病内科	助教	川口 章吾	むつ総合病院
H29.4.1	消化器内科、血液内科、膠原病内科	助教	立田 哲也	昭和大学江東豊洲病院
H29.4.1	消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	助教	吉田 枝里	黒石市国民健康保険黒石病院
H29.4.1	整形外科	助教	浅利 享	高岡整志会病院
H29.4.1	整形外科	助教	岩崎 宏貴	十和田市立中央病院
H29.4.1	産科婦人科	助教	阿部 和弘	国立病院機構弘前病院
H29.4.1	産科婦人科	助教	伊東 麻美	青森県立中央病院
H29.4.1	産科婦人科	助教	平川 八大	むつ総合病院
H29.4.1	産科婦人科	助教	横田 恵	青森県立中央病院
H29.4.1	形成外科	助教	和田 尚子	形成外科 医員
H29.4.1	リハビリテーション科	助教	佐々木 静	国立病院機構弘前病院
H29.4.1	高度救命救急センター	助教	鎌田 耕輔	国立病院機構弘前病院
H29.4.1	高度救命救急センター	助教	金城 貴彦	青森県立中央病院
H29.4.1	高度救命救急センター	助教	櫻庭 伸悟	青森市民病院
H29.4.1	消化器内科、血液内科、膠原病内科	助手	太田 真二	消化器内科、血液内科、膠原病内科 医員
H29.4.1	神経科精神科	助手	坂本 由唯	弘前市立病院
H29.4.1	神経科精神科	助手	宮崎 健祐	医療法人社団東京愛成会 高月病院
H29.4.1	整形外科	助手	藤田 拓	高度救命救急センター 医員
H29.4.1	脳神経外科	助手	藤原 望	青森市民病院 研修医
H29.4.1	検査部	助手	石岡 佳子	呼吸器内科、感染症科 医員
H29.4.1	集中治療部	助手	佐々木 真緒	麻酔科 医員
H29.4.1	集中治療部	助手	菅沼 拓也	麻酔科 医員
H29.5.1	麻酔科	助手	高橋 枝み	東京女子医科大学附属病院
H29.5.1	集中治療部	助手	渡邊 洋平	琉球大学

【辞職】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前所属・異動先等
H29.3.5	検査部	助手	山本 絢子	
H29.3.31	産科婦人科	講師	重藤 龍比古	大館市立総合病院
H29.3.31	リハビリテーション科	講師	田中 利弘	高岡整志会病院
H29.3.31	消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	助教	長谷部 達也	大館市立総合病院
H29.3.31	整形外科	助教	林 慶充	十和田市立中央病院
H29.3.31	形成外科	助教	渡辺 庸介	形成外科 医員
H29.3.31	高度救命救急センター	助教	小笠原 紘志	黒石市国民健康保険黒石病院
H29.3.31	消化器内科、血液内科、膠原病内科	助手	佐竹 美和	国立病院機構弘前病院
H29.3.31	消化器内科、血液内科、膠原病内科	助手	中川 悟	むつ総合病院
H29.3.31	消化器内科、血液内科、膠原病内科	助手	西下 理恵	三沢市立三沢病院
H29.3.31	神経科精神科	助手	岡 応樹	青い森病院
H29.3.31	神経科精神科	助手	吉田 和貴	神経科精神科 医員
H29.3.31	整形外科	助手	山内 良太	つがる総合病院
H29.3.31	産科婦人科	助手	大石 舞香	大館市立総合病院
H29.3.31	産科婦人科	助手	熊坂 諒大	青森県立中央病院
H29.3.31	産科婦人科	助手	山内 愛紗	むつ総合病院
H29.3.31	麻酔科	助手	時田 幸治	青森県立中央病院
H29.3.31	高度救命救急センター	助手	末吉 徳彦	公立野辺地病院
H29.3.31	高度救命救急センター	助手	成田 真人	村上新町病院
H29.3.31	集中治療部	助手	赤石 真啓	つがる総合病院
H29.3.31	集中治療部	助手	佐々木 剛範	青森慈恵会病院
H29.4.30	集中治療部	助手	天内 絵理香	琉球大学

【配置換】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前所属・異動先等
H29.3.1	麻酔科	助教	矢越 ちひろ	麻酔科学講座 助教
H29.4.1	集中治療部	助教	斎藤 淳一	麻酔科学講座 助教
H29.4.1	集中治療部	助手	豊岡 憲太郎	救急・災害医学講座 助手

【配置変更】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前所属・異動先等
H29.4.1	高度救命救急センター	助教	松田 尚也	脳神経外科 助教

【任期満了】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前所属・異動先等
H29.3.31	薬剤部	准教授	板垣 史郎	札幌医科大学

診療教授等新規称号付与者（H29.3～H29.5）

称 号	氏 名	所 属	期 間
診療教授	大徳 和之	医療安全推進室	平成29年 4 月 1 日～平成32年 3 月31日
診療講師	境 雄大	呼吸器外科	平成29年 4 月 1 日～平成32年 3 月31日
診療講師	武田 育子	耳鼻咽喉科	平成29年 4 月 1 日～平成32年 3 月31日



是非お願いします。（小林 記）

春は別れの季節でもあり、出会いの季節でもあります。卒業した学生は新しい勤務地で忙しく毎日を送っていることでしょう。また入学した新入生にとっては、自由な大学生活になり、これからの不安よりも期待の方が大きいのではないのでしょうか。春はやはり気持ちがよいもので、またフレッシュでやる気のある学生・先生を見ていると元気がもらえます。自分もまだまだこれからと叱咤激励し、今年も何かの目標をたてて、新しいことに挑戦したいという気持ちだけは持っています。教室の窓から見える岩木山にはまだ雪が残っていますが、青空に映える岩木山、夕焼けに映える岩木山は昔と同じままの姿をみせています。自分が弘前大学にきた三十年前と全く変わらず、やはり岩木山は美しいと思う今日この頃です。

さて、医学部ウォーカーですが、今回も多くの記事を投稿して頂きありがとうございます。医学部ウォーカーも回を重ねる毎に段々と厚くなり、冊子になるのではないかと思う程です。最近の医学部ウォーカーの人事異動欄を見やすいように変更してみました。いかがでしょうか？皆さんからの医学部ウォーカーに関するご意見がありましたら是非お願いします。

編集後記